

実務経験のある教員等による授業科目の一覧表

美萩野保健衛生学院

教育内容	学 科 目	講 師 氏 名	単位数	単位数	時間数
歯科衛生士概論	歯科衛生士概論	喜佐田 由美	2	2 単位	30
臨床歯科医学	保存修復学	折本 愛	16	2 単位	30
	歯内療法学	中島 啓介		2 単位	30
	歯科補綴学	安増 絵理		2 単位	30
	歯周治療学	中村 太志		2 単位	30
	小児歯科学	西田 郁子		2 単位	30
	歯科矯正学	黒石 加代子		2 単位	30
	口腔外科学	原口 和也		2 単位	30
	歯科麻酔学(救急処置法)	原野 望		2 単位	30
歯科予防処置論	歯科予防処置論	喜佐田 由美・坂本 真記子	10	4 単位	60
	歯科予防処置実習Ⅰ(う蝕予防)	坂本 真記子		1 単位	45
	歯科予防処置実習Ⅱ(歯周病予防)	喜佐田 由美		3 単位	135
	口腔保健管理法	坂本 真記子		2 単位	30
歯科保健指導論	訪問歯科保健指導	山田 朋恵	10	2 単位	30
	歯科保健指導論	山田 朋恵		3 単位	45
	栄養指導	惠民 真理子		2 単位	30
	歯科保健指導実習	山田 朋恵		3 単位	135
歯科診療補助論	歯科診療補助論(院内感染防止を含む)	鶴頭 成子	10	3 単位	45
	歯科診療補助実習	鶴頭 成子		4 単位	180
	歯科放射線学	小田 昌史		2 単位	30
	臨床検査法	瀬田 千尋		1 単位	15
臨床・臨地実習	臨地・臨床実習		20	20 単位	900
		合 計		68 単位	1950

大学等の設置者の役員名簿

学校法人 美萩野学園 役員名簿

役職名	氏名	備考
理事長	権 堂 竹 虎	
副理事長	権 堂 憲 幸	
理事	深 江 政 美	
理事	藤 田 正 三	学外者
理事	池 田 美 佐 子	
理事	馬場園 茂 生	学外者
理事	高 須 憲 治	
理事	三 輪 昭 廣	
理事	加 来 和 久	
監事	浜 崎 力	学外者
監事	安 倍 英 史	学外者

学 科 目	歯科衛生士概論	担 当 者	喜佐田 由美
担当者の実務経験	歯科衛生士として市内歯科医院勤務経験を有する		
実施時期	1年 前期	授業の方法	講義
単 位 数	2 単位	授業回数	15回 (試験1回を含む)
テキスト及び参考資料	最新歯科衛生士教本 歯科衛生学総論 (医歯薬出版) 最新歯科衛生士教本 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み2 歯科衛生士と法律・制度 第3版(医歯薬出版)		

授業科目の概要

歯科医療の特異性と歯科衛生士の果たす役割を考える。その業務における義務や責任について理解し、医療に携わる者としての心構えを養う。

成績評価の方法、基準

レポート提出や筆記試験の総合評価とする。筆記試験は、100点満点とし、60点以上を合格とする。

年間授業計画

回数	授 業 内 容	到 達 目 標
1	歯科衛生学とは	・歯科衛生士法を理解する。
2	歯科衛生活動のための理論	・医療倫理について考える。
3	歯科衛生過程	・歯科衛生士の業務を理解する。
4	歯科衛生士法と歯科衛生業務1	・インフォームドコセントについて理解する。
5	歯科衛生士法と歯科衛生業務2	・歯科医療の特異性を学ぶ。
6	歯科衛生士法と歯科衛生業務3	・医療に携わる者としての心構えを考える。
7	歯科衛生と医療理論1	・自分の目指す歯科衛生士像を考える。
8	歯科衛生と医療理論2	
9	歯科衛生士と活動と組織1	
10	歯科衛生士と活動と組織2	
11	歯科衛生士と活動と組織3	
12	歯科衛生士と活動と組織4	
13	自分の目指す歯科衛生士像について	
14	歯科衛生士と活動と組織	
15	まとめ・定期試験	

学 科 目	保存修復学	担 当 者	折本 愛
担当者の実務経験	歯科医師として大学病院等で勤務経験を有する		
実施時期	1年 後期	授業の方法	講義・実習
単 位 数	2単位	授業回数	15回（試験1回を含む）
テキスト及び参考資料	最新歯科衛生士教本 歯の硬組織・歯髄疾患 保存修復・歯内療法（医歯薬出版）		

授業科目の概要

歯は体の外部環境に晒される部位に形成される唯一の硬組織であり、自己修復能の極めて低い組織である。

そのため、歯の組織疾患は他の組織にはない特殊性が存在する。特に齲歎は発生頻度の高い疾患であり、微生物感染症をはじめとする他因子に起因する。

本科目では、齲歎をはじめとする硬組織疾患とその修復法について、口腔衛生指導、予防処置および診療補助等、歯科衛生士業務遂行に必要な知識を修得させる。

成績評価の方法、基準

筆記試験を行い、100点満点とし、60点以上を合格とする。

年間授業計画

回数	授 業 内 容	到 達 目 標
1	保存修復学概論	・保存修復の意義と目的、種類/齲歎と、他の歯の硬組織疾患/保存修復処置の手順/診査法について理解する。
2	器具・器材および診査方法	・保存修復処置に用いられる器具、器材/修復前処置と補助的器材/歯髄保護処置について理解する。
3	診査方法及び歯髄保護	
4	窩洞と修復法1(概論)	・窩洞概論・分類法/修復法概論について理解する。
5	修復法2(CR修復)	・成形修復1・成形修復の概要とコンポジットレジン修復について理解する。
6	修復法3(GIC修復)	・成形修復2・グラスアイオノマー修復について理解する。
7	修復法4(インレー修復1)	・インレー修復1・インレー修復の概要とメタルインレー修復について理解する。
8	修復法5(インレー修復2)	・インレー修復2・ポーセレンインレーおよびコンポジットレジンインレー修復/合着用セメントについて理解する。
9	修復法6(ラミネートベニア修復)	・ラミネートベニア修復/保存修復学の現在と未来について理解する。
10	修復法7(審美治療)	
11	修復法8(審美治療)	
12	修復法8(臨床推論)	
13	実習 CR修復GIC修復	・レジン窩洞ブラックⅢ級、グラスアイオノマーセメント根面齲歎の外形線描記/窩洞形成/光重合レジン充填グラスアイオノマーセメント充填について理解する。
14		
15	まとめ・定期試験	

学 科 目	歯内療法学	担 当 者	中島 啓介
担当者の実務経験	歯科医師として大学病院等で勤務経験を有する		
実施時期	1年 後期	授業の方法	講義・実習
単 位 数	2 単位	授業回数	15回（試験1回を含む）
テキスト及び参考資料	最新歯科衛生士教本 歯の硬組織・歯髄疾患 保存修復・歯内療法（医歯薬出版）		

授業科目の概要

歯髓炎・根尖性歯周炎は口腔内に多発する疾患である。これらの疾患ではう蝕あるいは歯周疾患から影響を受けることが多いため、歯周疾患との混合感染により発症する歯髓炎・根尖性歯周炎についても説明し、疾患ごとに病因、診断、治療法を学習させる。臨床的な内容については診療補助を中心として説明するが、治療の最終ゴールを提示し歯髓炎・根尖性歯周炎ならびに歯周疾患との関係についても学習させる。

成績評価の方法、基準

筆記試験を行い、100点満点とし、60点以上を合格とする。

年間授業計画

回数	授 業 内 容	到 達 目 標
1	歯内療法の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・歯内療法の目的を説明できる。
2	歯髓保存療法、歯髓の除去療法	<ul style="list-style-type: none"> ・歯髓炎の進行程度による治療法の違いを説明できる。
3	根管治療	<ul style="list-style-type: none"> ・根管治療の目的と手技を説明できる。
4	根管充填	<ul style="list-style-type: none"> ・根管充填の目的と手技を説明できる。
5	外科的歯内療法	<ul style="list-style-type: none"> ・外科的歯内療法の種類と手技を説明できる。
6	歯の外傷	<ul style="list-style-type: none"> ・歯の外傷の原因と治療法を説明できる。
7	歯内療法における歯科衛生士の役割	<ul style="list-style-type: none"> ・歯内療法における歯科衛生士の役割を説明できる。
8	歯内療法における診療補助	<ul style="list-style-type: none"> ・歯内療法の各治療における流れと使用器材を説明できる。
9	実習1 ラバーダム防湿・天蓋除去	<ul style="list-style-type: none"> ・ラバーダム防湿の準備・実施ができる
10		<ul style="list-style-type: none"> ・天蓋除去の準備ができる。
11	実習2 根管拡大・形成	<ul style="list-style-type: none"> ・ラバーダム防湿・天蓋除去の診療補助ができる。
12		<ul style="list-style-type: none"> ・根管拡大・形成の準備ができる。
13	実習3 根管充填	<ul style="list-style-type: none"> ・根管拡大・形成の診療補助ができる。
14		<ul style="list-style-type: none"> ・根管充填の準備ができる。
15	まとめ・定期試験	<ul style="list-style-type: none"> ・根管充填の診療補助ができる。

学 科 目	歯科補綴学	担 当 者	安増 納理
担当者の実務経験	歯科医師として大学病院等にて勤務経験を有する		
実施時期	1年 後期	授業の方法	講義
単 位 数	2 単位	授業回数	15回（試験1回を含む）
テキスト及び参考資料	最新歯科衛生士教本 咀嚼障害・咬合異常1 歯科補綴 第2版（医歯薬出版）		

授業科目の概要

歯科補綴治療に関する基礎知識および治療の実際を教授するとともに歯科衛生士の役割について確認する。

成績評価の方法、基準

定期試験の結果で100点満点とし60点以上を合格とする。

年間授業計画

回数	授 業 内 容	到 達 目 標
1	歯科補綴治療の意義と目的	・歯科補綴治療の意義について理解する。
2	補綴装置（クラウン・ブリッジ）	・各種補綴装置（クラウン・ブリッジ）の概要、構成要素、分類について理解する。
3	補綴装置（クラウン・ブリッジ）	・各種補綴装置（有床義歯）の概要、構成要素、分類について理解する。
4	補綴装置（有床義歯）	・各種補綴装置（インプラント・特殊口腔内装置）の概要、構成要素、分類について理解する。
5	補綴装置（有床義歯）	・各歯科補綴用語、下顎運動を理解する。
6	補綴装置（インプラント・特殊口腔内装置）	・口腔の機能について理解する。
7	歯科補綴治療の基礎知識	・歯科補綴治療の際に行われる各種検査方法を理解する。
8	歯科補綴治療の基礎知識	・クラウン・ブリッジ治療の流れと診療補助を理解する。
9	歯科補綴治療における各種検査	・有床義歯治療の流れと診療補助を理解する。
10	クラウン・ブリッジ治療	・インプラント治療の流れと診療補助を理解する。
11	クラウン・ブリッジ治療	
12	有床義歯治療	
13	有床義歯治療	
14	インプラント治療	
15	まとめ・定期試験	

学 科 目	歯周療法学	担 当 者	中村 太志
担当者の実務経験	歯科医師として大学病院等で勤務経験を有する		
実施学年	2年 前期	授業の方法	講義・実習
単 位 数	2 単位	授業回数	15回 (試験1回を含む)
テキスト及び参考資料	最新歯科衛生士教本 歯周病学 第2版 (医歯薬出版)		

授業科目の概要

歯周組織の解剖や機能を理解し、歯周疾患の原因とその成立から分類、全身疾患との関連を知る。

歯周治療に必要な診査、診断、治療法を知り、さらに歯周治療における歯科衛生士の役割について詳細に学ぶ。

スライドおよび配布資料を用い、テキストの補充を行う。

成績評価の方法、基準

筆記試験を行い、100点満点とし、60点以上を合格とする。

年間授業計画

回数	授業内容	到達目標
1	歯周治療とは 正常な歯周組織の構造と機能	①歯周疾患と歯周療法の概要を説明できる。 ②歯周疾患の分類とその症状について説明できる。 ③歯周疾患の原因・発症を説明できる。 ④歯周診査法を理解し、歯周治療に使用する器具名、薬品名の使用法を理解し、説明できる。 ⑤スケーリング・ルートプレーニングについて理解し、スケーラーの構造、特性、操作法について説明できる。 ⑥歯周外科について理解し、そのアシスタント法について理解し、説明できる。 ⑦歯周治療のメインテナンスの重要性を理解し、歯科衛生士としての役割を理解し、説明できる。
2	歯周疾患の分類	
3	歯周疾患の原因 歯周疾患と全身の状態との関わり	
4	歯周治療の進め方 歯周疾患の診査	
5	歯周基本治療(1)	
6	歯周基本治療(2)	
7	歯周基本治療(3)	
8	歯周基本治療(4)	
9	歯周外科治療(1)	
10	歯周外科治療(2)	
11	歯周外科治療(3)	
12	歯周外科治療(4)	
13	口腔機能回復療法 インプラント周囲組織について	
14	歯周治療のメインテナンス および歯周定期治療	
15	まとめ・定期試験	

学 科 目	小児歯科学	担 当 者	西田 郁子
担当者の実務経験	歯科医師として大学病院等にて勤務経験を有する		
実施時期	2年 前期	授業の方法	講義
単 位 数	2 単位	授業回数	15回 (試験1回を含む)
テキスト及び参考資料	最新歯科衛生士教本 小児歯科 第2版 (医歯薬出版)		

授業科目の概要

小児は成長発育過程にあるため、その身体的および精神的発育の特徴について理解し、小児の歯科治療を安全に行えるよう、その対応法について学習する。また、小児期の主な疾患異常（齲歯、歯周疾患、感染性疾患、軟組織疾患、歯列不正）とその治療の特徴および予防法について学習する。

成績評価の方法、基準

成績評価方法：定期試験結果 基準：60点以上を合格とする

年間授業計画

回数	授 業 内 容	到 達 目 標
1	発育概論 小児の精神的および運動機能の発達	小児歯科の特徴と意義・目的を理解する。発達の原則を学習し、各発育段階における特徴（身体的、精神的、運動機能、言語、情動の発達）について理解する。
2	小児の生理的特徴 顎顔面と頭蓋の成長発育	小児のバイタルサインとその特徴を理解する。 脳頭蓋、顔面頭蓋の発育の特徴およびその発育様式を理解する。
3	歯の発育および異常	歯の発育段階と形成異常にについて理解する。
4	歯列および咬合の発育	歯列および咬合の発育段階とその特徴について理解する。
5	乳歯および幼若永久歯の特徴	乳歯および幼若永久歯の形態的特徴、組織学的・物理化学的特徴を理解する。
6	小児期のう蝕の特徴	う蝕の病因を学習し、乳歯う蝕および幼若永久歯のう蝕の特徴について理解する。
7	小児期のう蝕予防	乳歯う蝕の為害作用について学習し、小児期に行われるう蝕予防処置（ブラークコントロール、フッ化物の応用、小窓製溝填塞法、食事指導）について理解する。
8	感染性疾患・軟組織疾患 小児期の歯周疾患	小児の口腔粘膜や歯肉にみられる疾患について理解する。小児の歯周組織の特徴を学習し、小児期にみられる歯周疾患について理解する。
9	小児期の歯科治療体系総論	小児歯科診療の特徴、流れを学習し、母親教室、定期健診の目的・意義について理解する。
10	小児の対応法	小児期の年齢別対応法、歯科治療時の対応法の種類と特徴について理解する。
11	小児期における歯冠修復	乳歯と幼若永久歯の臨床的特徴と歯冠修復時の特徴について理解する。
12	小児期における歯内療法	乳歯と幼若永久歯の歯内療法の特徴、診療補助について理解する。
13	小児期における外科的処置	小児期の外科的処置（抜歯、膿瘍切開）の特徴および診療補助について学習する。小児期の歯の外傷について理解する。
14	咬合誘導	咬合誘導の意義・目的、保隙装置の種類および特徴について理解する。
15	まとめ・定期試験	

学 科 目	歯科矯正学	担 当 者	黒石 加代子
担当者の実務経験	歯科医師として大学病院等にて勤務経験を有する		
実施時期	2年 前期	授業の方法	講義・実習
単 位 数	2単位	授業回数	15回(試験1回を含む)
テキスト及び参考資料	最新歯科衛生士教本 咀嚼障害・咬合異常2 歯科矯正(医歯薬出版)		

授業科目の概要

歯科矯正学は、不正咬合や咀嚼障害の原因・予防および治療法を研究する歯学の一分野である。従って、その基礎と臨床に関して基本的な事項を修得する。

成績評価の方法、基準

筆記試験を行い、100点満点とし、60点以上を合格とする。

年間授業計画

回数	授 業 内 容	到 達 目 標
1	歯科矯正学概論	・歯科矯正学とは。 ・歯科矯正治療の目的と必要性
2	成長・発育	・顎、歯、歯列の成長発育の特徴
3	正常咬合	・正常咬合の成立条件 ・正常咬合の種類
4	不正咬合	・不正咬合の種類。分類。原因
5	矯正力と歯の移動	・歯の移動様式と組織反応
6	矯正治療に必要な資料	・資料の種類と作り方。使用方法
7	矯正治療に必要な器具	・器具・器材の名称と使用方法
8	矯正装置	・装置の名称と使用方法
9	顎態模型製作実習(1)	・印象採得・石膏の流し方
10	顎態模型製作実習(1)	・咬合採得・顎弓計測
11	顎態模型製作実習(2)	・模型の仕上げ方
12	顎態模型製作実習(2)	
13	顎態模型製作実習(3)	
14	顎態模型製作実習(3)	
15	まとめ・定期試験	

学 科 目	口腔外科学	担 当 者	原口 和也
担当者の実務経験	歯科医師として大学病院等で勤務経験を有する		
実施時期	1年 後期	授業の方法	講義・演習・実習
単 位 数	2 単位	授業回数	15回（試験1回を含む）
テキスト及び参考資料	最新歯科衛生士教本 頸・口腔粘膜疾患 口腔外科・歯科麻酔(医歯薬出版)		

授業科目の概要

口腔外科臨床で取り扱う内容について、概説し各疾患についての特徴及び、治療法について学習する。また、口腔外科領域の手術についての術式、器具及び、麻酔法についても講義を行い、口腔外科手術アシスタントに際しての知識、技能についても習得することを目的とする。

成績評価の方法、基準

筆記試験を行い、100点満点中60点以上を合格とする。

年間授業計画

回数	授 業 内 容	到 達 目 標
1	口腔外科学総論、診察・診断の実際	• 口腔外科の概要
2	口腔領域の先天異常・変形	口腔外科の概要と内科系疾患とのかかわりについて理解を深める。
3	口腔領域の損傷、頸関節疾患	• 口腔外科治療の主な疾患
4	口腔粘膜疾患、血液疾患と出血性素因	口腔外科治療における歯科衛生士の役割について理解を深める。
5	頸口腔領域の炎症、頸口腔領域の囊胞	• 口腔外科領域の麻酔
6	頸口腔領域の腫瘍	緊急蘇生法を含めた歯科麻酔について理解を深める。
7	唾液腺疾患、口腔領域の神経性疾患	
8	小手術概論(実習前講義)、麻酔 周術期の口腔機能管理	
9	1. 手指消毒、手術用グローブの着脱法	
10	2. 感染予防対策	
11	3. 脈拍測定及び血圧測定	
12	4. 器具の名称と取り扱い方	
13	5. 埋伏抜歯のトレーセットと器具の受渡し 以上の項目を3ローテーションで実習 し、技能の習得を行う。	
14		
15	まとめ・定期試験	

学 科 目	歯科麻酔学（救急処置法）	担当者	原野 望
担当者の実務経験	歯科医師として大学病院等で勤務経験を有する		
実施時期	2年 後期	授業の方法	講義・実習
単 位 数	2 単位	授業回数	15回（試験1回を含む）
テキスト及び参考資料	歯科衛生士テキスト 歯科麻酔学・全身管理学（学建書院）		

授業科目の概要

近年、歯科治療技術の進歩により口腔インプラント、歯周外科などの外科処置が盛んに行われている。このような高侵襲の処置は快適・安全に行わなければならない。加えて、高齢社会に伴い何らかの全身疾患を持つ有病者が増加する傾向にあるが、歯科治療によって全身疾患が増悪することもある。以上のことより、歯科においても全身管理が必要になる。ここでは、全身評価のためのバイタルサインのチェック法、歯科治療を円滑に行うための麻酔法、歯科治療時に起こる偶発症への予防・対処法、緊急事態に対する救急蘇生法について学ぶ。

成績評価の方法、基準

筆記試験を行い、100点満点とし、60点以上を合格とする。

年間授業計画

回数	授業内容	到達目標
1	歯科麻酔の役割、歯科麻酔における歯科衛生士の役割	1. 歯科衛生士に必要な歯科麻酔の知識を習得する。 2. 全身の評価法を列挙できる。 3. ストレスに対する生体反応を説明できる。 4. バイタルサインの説明ができる。 5. 血圧・脈拍の測定ができる。 6. 歯科の麻酔法を列挙し、説明できる。 7. 局所麻酔法を説明できる。 8. 局所麻酔薬の添加物の役割と作用を説明できる。 9. 精神鎮静法の適応を説明できる。 10. 笑気吸入鎮静法と静脈内鎮静法の利点・欠点を説明できる。 11. 精神鎮静法に使用する薬剤を説明できる。 12. 全身麻酔法と適応について説明できる。 13. 確実なCPRを修得する。 14. 傷病者に対するAEDの使用法を修得する。 15. 窒息の解除法を修得する。 16. ACLSについて説明できる。 17. 静脈路確保に必要な物の準備ができる。 18. 救急蘇生に必要な薬剤を説明できる。 19. 歯科治療時の偶発症を説明できる。 20. 偶発症の対処・予防法を説明できる。 21. 歯科治療時に注意を要する全身疾患を説明できる。 22. 口腔顔面痛を説明できる。 23. 歯に関連する疾患を列挙できる。
2	全身の評価法、ストレスに対する生体の反応	
3	バイタルサインの意味と見方	
4	歯科における麻酔法	
5	局所麻酔 (局所麻酔薬の種類と含有物、表面麻酔、浸潤麻酔、伝導麻酔)	
6	精神鎮静法（笑気吸入鎮静法、静脈内鎮静法）	
7	全身麻酔（吸入麻酔、静脈麻酔、気管内挿管麻酔）	
8	一次救命処置 (気道確保、人工呼吸、胸骨圧迫)	
9	一次救命処置（AED、窒息の解除）	
10	ACLS（静脈路確保、救急薬剤）	
11	歯科治療時の偶発症 (過換気症候群、神経性ショックなど)	
12	有病者歯科治療 (虚血性心疾患、脳血管傷害、糖尿病、高血圧症など)	
13	実習 (バイタルサイン、CPR、AED、笑気吸入鎮静法)	
14	まとめ・定期試験	

学 科 目	歯科予防処置論	担 当 者	喜佐田 由美
担当者の実務経験	歯科衛生士として市内歯科医院勤務経験を有する		
実施時期	1年 前期・後期	授業の方法	講義
単 位 数	2 単位	授業回数	15回（試験1回を含む）
テキスト及び参考資料	最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版（医歯薬出版）		

授業科目の概要

医療技術の発展に伴い、歯科衛生士の資質そのものの向上の必要性が求められている。

その中で必要とされる歯科予防処置や歯周病予防に関する知識を習得する必要がある。

そこで基礎知識から相互実習に必要な知識までを1年を通して学んでいく。

成績評価の方法、基準

出席状況・レポート・授業態度・筆記試験等の総合評価とする。

年間授業計画

回数	授 業 内 容	到 達 目 標
1	歯科予防処置の概論	・歯科予防処置及び歯周病予防の基礎知識を身につける
2	基礎知識①	・歯科予防処置を的確に行う技術を身につける。
3	基礎知識②	・歯や口腔に関する基礎知識を身につける。
4	付着物・沈着物	・全身及び口腔の状態を的確に観察する能力をつける。
5	う蝕・歯周病	
6	スケーリング	
7	口腔内の情報収集	
8	キュレットスケーラー及び手用スケーラー	
9	シャープニング	
10	プロービング	
11	超音波スケーラーとエアースケーラー	
12	歯面研磨	
13	PMTC	
14	感染予防・偶発事故・相互実習	
15	まとめ・定期試験	

学 科 目	歯科予防処置論	担 当 者	坂本 真記子
担当者の実務経験	歯科衛生士として市内歯科医院勤務経験を有する		
実施時期	2年 前期・後期	授業の方法	講義・演習
単 位 数	2 単位	授業回数	15回 (試験1回を含む)
テキスト及び参考資料	最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版 (医歯薬出版)		

授業科目の概要

治療を中心とする歯科医療から予防中心の歯科医療へシフトされている中、歯科衛生士の役割も変化しつつあります。このような状況の変化に対応するとともに、ライフステージに応じた口腔の健康増進や個々の生涯を通じた継続的なう蝕予防、口腔管理を行えるように知識・技術を習得する。

成績評価の方法、基準

出席状況・受講態度・課題提出状況及び定期試験に基づき総合的評価を行う。

年間授業計画

回数	授 業 内 容	到 達 目 標
1	歯科予防処置の基礎知識 総論	・う蝕予防処置の基礎的知識を習得する。
2	う蝕の基礎知識 1	・う蝕予防処置の手段を理解する。
3	う蝕の基礎知識 2	・う蝕の病因論を理解し説明、予防や理論・メカニズムなどを明確に把握することができる。
4	う蝕活動性試験 1	
5	う蝕活動性試験 2	
6	う蝕活動性試験 3	
7	フッ素の知識	
8	フッ化物の応用 1	
9	フッ化物の応用 2	
10	フッ化物の応用 3	
11	フッ化ジアンミン銀の応用	
12	小窩裂溝填塞法 1	
13	小窩裂溝填塞法 2	
14	集団応用について	
15	まとめ・定期試験	

学 科 目	歯科予防処置実習 I (う蝕予防)	担 当 者	坂本 真記子
担当者の実務経験	歯科衛生士として市内歯科医院勤務経験を有する		
実施時期	2年 前期・後期	授業の方法	演習・実習
単 位 数	1 単位	授業回数	24回 (試験1回を含む)
テキスト及び参考資料	最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版 (医歯薬出版)		

授業科目の概要

う蝕予防処置における歯科衛生士の役割を理解し、臨床に必要な実践能力を身につける。

成績評価の方法、基準

出席状況・実習態度・課題及び定期試験に基づき総合的評価を行う。

年間授業計画

回数	授 業 内 容	到 達 目 標
1	う蝕活動性試験 1	・口腔内の状況を記録・説明することができる。
2	う蝕活動性試験 2	・プロフェッショナルケアの技術を熟読する。
3	う蝕活動性試験 3	・う蝕予防処置に用いる器具・器材を把握する。
4	う蝕活動性試験 4	・処置内容、注意事項などを事前・事後に説明することができる。
5	う蝕活動性試験 5	・術前、術後の説明・指導ができる。
6	フッ素の予防効果	
7	フッ化物の応用法 イオン導入法 1	
8	フッ化物の応用法 イオン導入法 2	
9	フッ化物の応用法 イオン導入法 3	
10	フッ化物の応用法 イオン導入法 4	
11	フッ化物の応用法 縫球塗布法 1	
12	フッ化物の応用法 縫球塗布法 2	
13	フッ化物の応用法 縫球塗布法 3	
14	フッ化物の応用法 縫球塗布法 4	
15	フッ化物の応用法 歯ブラシ法	
16.	フッ化物の応用法 トレー法 1	
17	フッ化物の応用法 トレー法 2	
18	フッ化物の応用法 フッ化物洗口法 1	
19	フッ化物の応用法 フッ化物洗口法 2	
20	小窓裂溝填塞法	
21	小窓裂溝填塞法	
22	フッ化ジアンミン銀塗布	
23	試験対策	
24	まとめ・定期試験	

学 科 目	歯科予防処置実習Ⅱ	担 当 者	喜佐田 由美
担当者の実務経験	歯科衛生士として市内歯科医院勤務経験を有する		
実施時期	1年 前期・後期	授業の方法	実習
単 位 数	1 単位	授業回数	25回（実技試験を含む）
テキスト及び参考資料	最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版（医歯薬出版）		

授業科目の概要

歯科予防処置実習の基礎・基本となる、手技的スキルを1年間かけて実施する。

鎌型スケーラー及びキュレットスケーラーの模型実習を行い、その技術習得を図る。

手技の対象が常に生きている人であることを踏まえ、しっかりした手技に熟練していかなければならない。

成績評価の方法、基準

レポート・実技試験・実習態度等の総合評価とする。

年間授業計画

回数	授 業 内 容	到 達 目 標
1	鎌型スケーラー基礎実習1	• 予防的歯石除去法を的確に行う技術を身に付ける。
2	鎌型スケーラー基礎実習2	• スケーラーの使用方法を熟知する。
3	鎌型スケーラー前歯部1	• 模型実習にて基本を学び、相互実習に応用できる技術を身に付ける。
4	キュレットスケーラー基礎実習	• ユニットでの模型実習を取り入れ、より実践に近い形態での訓練を行う。また、ユニットでの訓練を繰り返すことで、ユニット操作やライティングの上達を目指す。
5	キュレットスケーラー模型実習前歯部1	
6	鎌型スケーラー模型実習前歯部2	
7	キュレットスケーラー模型実習前歯部2	
8	鎌型スケーラー模型実習前歯部3	
9	キュレットスケーラー模型実習前歯部3	
10	シャープニングと全体の復習	
11	鎌型スケーラー模型実習臼歯部1	
12	キュレットスケーラー模型実習臼歯部1	
13	鎌型スケーラー模型実習臼歯部2	
14	キュレットスケーラー模型実習臼歯部2	
15	鎌型スケーラー模型実習臼歯部3	
16	キュレットスケーラー模型実習臼歯部3	
17	シャープニングと全体の復習	
18	鎌型スケーラー模型実習臼歯部4	
19	キュレットスケーラー模型実習臼歯部4	
20	鎌型スケーラー模型実習臼歯部5	
21	鎌型スケーラー模型実習	
22	鎌型スケーラー実技試験	
23	キュレットスケーラー模型実習臼歯部5	
24	キュレットスケーラー模型実習	
25	キュレットスケーラー実技試験	

学 科 目	歯科予防処置実習Ⅱ（歯周病予防）	担 当 者	喜佐田 由美
担当者の実務経験	歯科衛生士として市内歯科医院勤務経験を有する		
実施時期	2年 前期・後期	授業の方法	実習
単 位 数	1 単位	授業回数	24回（試験1回を含む）
テキスト及び 参考資料	最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版（医歯薬出版）		

授業科目の概要

歯科予防処置や治療についての知識だけでなく、正確な診査・的確な診断能力を養い、口腔衛生指導・歯石除去・う蝕予防処置・メインテナンスを確実に行うことが出来る能力を身に付ける。

成績評価の方法、基準

実習態度・実習レポート・筆記試験等の総合評価とする。

年間授業計画

回数	授 業 内 容	到 達 目 標
1	各種歯口清掃法の基本習得実習	・処置を行うにあたり、全身状態を把握し、かつ必要な口腔内の状況を正確に診査、分析する能力を習得する。
2	フォーンズ法 チャート記入練習・歯石観察	・適切な器具を選択でき、正しい操作ができること。
3	スクラッピング法 チャート記入練習・歯石観察	・実施にあたっては、対象者の口腔内ばかりでなく、全身的・心理的にも配慮が出来る。
4	バス法・スクラッピング法 チャート記入練習・歯石観察	
5	バス法・スクラッピング法 チャート記入練習・歯石観察	
6	ローリング法・チャーターズ法 チャート記入練習・歯石観察	
7	相互実習のための訓練1	
8	相互実習のための訓練2	
9	歯石探知 模型・相互実習	
10	歯石探知 模型・相互実習	
11	ミラーの訓練 模型・相互実習	
12	ミラーの訓練 模型・相互実習	
13	鎌型スケーラー 模型実習	
14	キュレットスケーラー 模型実習	
15	手用スケーラー 相互実習	
16	手用スケーラー 相互実習	
17	プロービング 模型・相互実習	
18	プロービング 模型・相互実習	
19	超音波スケーラーと歯面研磨実習 模型実習1	
20	超音波スケーラーと歯面研磨実習 模型実習1	
21	超音波スケーラーと歯面研磨実習 相互実習1	
22	超音波スケーラーと歯面研磨実習 相互実習1	
23	試験対策	
24	まとめ・定期試験	

学 科 目	歯科予防処置実習Ⅱ（歯周病予防）		
担当者の実務経験	歯科衛生士として市内歯科医院勤務経験を有する		
実施時期	3年 前期	授業の方法	実習
単位数	1 単位	授業回数	24回（試験1回を含む）
テキスト及び参考資料	最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版（医歯薬出版）		

授業科目の概要

実習の総仕上げとして、患者実習・臨床実習に備える。手技や知識の充実を図り、より一層の実技の向上を目指す。その為に繰り返し訓練し、力をつける。

成績評価の方法、基準

実習態度・レポート・筆記試験等の総合評価とする。

年間授業計画

回数	授 業 内 容		到 達 目 標
1	プロービング 下顎	相互実習	・歯科予防処置を的確に行う技術を身につける。
2	プロービング 下顎	相互実習	・3年間の総仕上げと考え、各操作の手順や器具の準備がスムーズに行えるように練習を繰り返す。
3	エアーフロー	模型実習	・また、1回の操作に対する、時間短縮・操作の丁寧さを目標に技術を習得し、即戦力となれるよう努力する。
4	エアーフロー	相互実習	
5	PMTC	模型実習	
6	PMTC	相互実習	
7	超音波スケーラーと研磨実習	相互実習	
8	超音波スケーラーと研磨実習	相互実習	
9	プロービング 全顎	相互実習	
10	プロービング 全顎	相互実習	
11	超音波スケーラー仕上げ1	相互実習	
12	超音波スケーラー仕上げ1	相互実習	
13	鎌型スケーラー	模型実習	
14	キュレットスケーラー	模型実習	
15	手用スケーラー	相互実習	
16	手用スケーラー	相互実習	
17	超音波スケーラー仕上げ2	相互実習	
18	超音波スケーラー仕上げ2	相互実習	
19	プロービング・超音波S・歯面研磨相互実習		
20	プロービング・超音波S・歯面研磨相互実習		
21	プロービング・超音波S・歯面研磨相互実習		
22	プロービング・超音波S・歯面研磨相互実習		
23	プロービング・超音波S・歯面研磨相互実習		
24	まとめ・定期試験		

学 科 目	口腔保健管理法	担 当 者	坂本 真記子
担当者の実務経験	歯科衛生士として市内歯科医院勤務経験を有する		
実施時期	2年 前期・後期	授業の方法	講義・演習
単 位 数	2 単位	授業回数	15回 (試験1回を含む)
テキスト及び参考資料	最新歯科衛生士教本 口腔保健管理 (医歯薬出版)		

授業科目の概要

生涯を通じた口腔保健管理を目標にし、口腔観察・口腔清掃から業務記録に至るまでをライフステージ合わせた指導・管理が出来るようとする。

成績評価の方法、基準

出席状況・受講態度・課題・定期試験に基づき総合的評価を行う。

年間授業計画

回数	授 業 内 容	到 達 目 標
1	口腔疾患予防の臨床<基礎知識> 1	・患者様からの情報を正確に捉え、正しく情報を読み取る。そのために何をどう記録し、何を読み取っていくかを学ぶ。
2	口腔疾患予防の臨床<基礎知識> 2	・記録を作成するにあたり、必要な知識・技術を習得し、また演習を実施することで実践できる能力を習熟する。
3	口腔疾患予防の臨床<基礎知識> 3	
4	生涯を通じた口腔保健管理 1	
5	生涯を通じた口腔保健管理 2	
6	口腔観察と口腔清掃 1	
7	口腔観察と口腔清掃 2	
8	口腔観察と口腔清掃 3	
9	業務記録 1	
10	業務記録 2	
11	業務記録 3	
12	口腔管理の演習 1	
13	口腔管理の演習 2	
14	口腔管理の演習 3	
15	まとめ・定期試験	

学 科 目	訪問歯科保健指導	担 当 者	山田 朋恵
担当者の 実務経験	歯科衛生士として市内歯科医院勤務経験を有する		
実施時期	2年 後期	授業の方法	講義・演習・実習
単 位 数	2 単位	授業回数	15回 (試験1回を含む)
テキスト及び 参考資料	牛山京子の在宅訪問における口腔ケア きれいな口・動く口・食べる口 (医歯薬出版) 最新歯科衛生士教本 高齢者歯科 第2版 (医歯薬出版)		

授業科目の概要

- ・口腔環境を整備し、的確に摂食・嚥下が出来るようになることで、要介護者のQOLを高めることを学ぶ。
- ・訪問歯科診療や訪問口腔ケアを実践する能力を習得するために本人及びその家族への対応法や援助・技術の方法を学ぶ。
- ・※授業の理解度に応じ、授業内容の変更あり。

成績評価の方法、基準

筆記試験を実施し、学習に対する取り組む姿勢も加えて100点満点とし、60点以上を合格とする。

年間授業計画

回数	授 業 内 容	到 達 目 標
1	口腔ケアに際しての基本的心がまえ	・高齢者の生態諸機能や病態と、歯科口腔疾患との関係が説明できる。
2	高齢者の健康と疾病	・摂食・嚥下のメカニズムを把握し、摂食・嚥下障害による全身への影響を説明できる。
3	老化による機能衰退・高齢者と薬剤	・訪問介護の現場における多職種との関わりを説明できる。
4	高齢者の口腔・高齢者に特有な口腔疾患	・ADLに応じた口腔ケアを実施できる。
5	摂食・嚥下のメカニズム(解剖・生理)	・訪問介護における歯科衛生士の役割を説明できる。
6	訪問口腔ケアの実際Ⅰ：実践の流れ・接し方	・訪問口腔ケアの実際を学び、演習にて実践することにより、術式を把握する。
7	訪問口腔ケアの実際Ⅱ：専門的口腔ケア	・在宅療養者やその家族に口腔ケアの必要性を説明できる。
8	訪問口腔ケアの実際Ⅲ：摂食・嚥下指導・リハビリテーション	
9	実習：専門的口腔ケア 義歯の取り扱い	
10	実習：専門的口腔ケア 道具の工夫	
11	実習：専門的口腔ケア（器質的）	
12	実習：専門的口腔ケア（器質的）	
13	実習：専門的口腔ケア（機能的）	
14	実習：摂食・嚥下介助：食事の姿勢・調理の工夫・食器の選び方	
15	まとめ・定期試験	

学 科 目	歯科保健指導論	担 当 者	山田 朋恵
担当者の実務経験	歯科衛生士として市内歯科医院勤務経験を有する		
実施時期	1年 前期・後期	授業の方法	講義
単 位 数	1 単位	授業回数	8回（試験1回を含む）
テキスト及び参考資料	最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版（医歯薬出版）		

授業科目の概要

歯科衛生士にとって重要な分野を占める歯科保健指導の基礎を固め、平行して学習する実習を円滑に行えるようにする為のものである。また、全身の健康と口腔、対象を取り巻く環境とを関連付けた好ましい歯科保健行動がとれるよう専門的な立場から支援できる基本的な知識を学ぶ。

※授業の理解度に応じ、授業内容の変更あり。

成績評価の方法、基準

筆記試験を実施し、学習に対する取り組む姿勢も加えて評価する。

年間授業計画

回数	授 業 内 容	到 達 目 標
1	歯科予防処置論・歯科保健指導論の必要性	<ul style="list-style-type: none"> ・歯科保健指導の意義と特性を説明できる。 ・歯科保健指導を個人と集団に分けて説明できる。
2	口腔の基礎知識	<ul style="list-style-type: none"> ・歯・歯周組織と口腔の構造と機能を説明できる。
3	歯面の付着物・沈着物 歯垢染色剤について	<ul style="list-style-type: none"> ・口腔内の付着物・沈着物の種類と成分を説明できる。
4	口腔衛生状態の指数 (PCR)	<ul style="list-style-type: none"> ・歯垢染色剤の使用方法と特徴が説明できる。
5	口腔衛生状態の指数 (OHI)	<ul style="list-style-type: none"> ・口腔清掃や歯周疾患、う蝕の指標を説明できる。
6	歯ブラシについて（歯ブラシの種類・特徴）	<ul style="list-style-type: none"> ・口腔衛生管理に関する清掃用具を説明できる。
7	PMA・禁煙指導（歯肉の炎症・喫煙が及ぼす害）	<ul style="list-style-type: none"> ・禁煙指導・支援ができる。
8	まとめ・定期試験	

学 科 目	歯科保健指導論	担 当 者	山田 朋恵
担当者の実務経験	歯科衛生士として市内歯科医院勤務経験を有する		
実施時期	2年 前期・後期	授業の方法	講義
単 位 数	1 単位	授業回数	8回（試験1回を含む）
テキスト及び参考資料	最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版（医歯薬出版）		

授業科目の概要

生涯を通じた歯科保健対策として専門的な立場から支援できる基本的な知識を学ぶ。

※授業の理解度に応じ、授業内容の変更あり。

成績評価の方法、基準

筆記試験を実施し、学習に対する取り組む姿勢も加えて評価する。

年間授業計画

回数	授 業 内 容	到 達 目 標
1	ライフステージに対応した歯科衛生介入 妊産婦期	・各ライフステージ別の対象者の一般的特徴と口腔の特徴および歯科保健行動を説明できる。
2	ライフステージに対応した歯科衛生介入 乳児期	・各ライフステージ別の口腔衛生指導ができる。
3	ライフステージに対応した歯科衛生介入 幼児期	・各ライフステージ別の食生活指導ができる。
4	ライフステージに対応した歯科衛生介入 学齢期	・要介護高齢者の特徴を説明できる。 ・要介護高齢者への歯科衛生介入を実施できる。
5	ライフステージに対応した歯科衛生介入 青年期・成人期	・障害児者の特徴を説明できる。 ・障害児者への歯科衛生介入を実施できる。
6	ライフステージに対応した歯科衛生介入 老年期	・大規模災害被災者の特徴を説明できる。 ・大規模災害時の歯科保健活動を説明できる。
7	配慮を要する者への歯科介入 要介護高齢者・障害児者・大規模災害被災者	
8	まとめ・定期試験	

学 科 目	歯科保健指導論	担 当 者	山田 朋恵
担当者の実務経験	歯科衛生士として市内歯科医院勤務経験を有する		
実施時期	3年 前期	授業の方法	講義
単 位 数	1 単位	授業回数	8回（試験1回を含む）
テキスト及び参考資料	最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版（医歯薬出版）		

授業科目の概要

1年生を患者に見立て対象者の抱えている問題を明確化し、問題の解決方法を計画し、介入していくために必要な一連の思考と行動のプロセスを学ぶ。

※授業の理解度に応じ、授業内容の変更あり。

成績評価の方法、基準

筆記試験実施し、学習に対する取り組む姿勢も加えて評価する。

年間授業計画

回数	授 業 内 容	到 達 目 標
1	歯科衛生過程の進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・歯科衛生過程のマネジメントサイクルを理解し全体像を説明できる。
2	歯科衛生アセスメント	<ul style="list-style-type: none"> ・歯科衛生過程における各構成要素の目的を説明できる。
3	う蝕について（復習）	<ul style="list-style-type: none"> ・歯科衛生過程における書面化（業務記録）の意義を説明できる。
4	歯周病について（復習）	<ul style="list-style-type: none"> ・口腔内の付着物・沈着物の種類と成分を説明できる。
5	食生活指導について（復習）	<ul style="list-style-type: none"> ・う蝕の分類、原因が明確に説明できる。 ・歯周病の分類、原因が明確に説明できる。
6	顎関節症、態癖について	
7	ブラッシング法、清掃用具について（復習） 予防の重要性について	
8	まとめ・定期試験	

学 科 目	栄養指導	担 当 者	惠良 真理子
担当者の実務経験	管理栄養士として市内の大学勤務経験を有する		
実施時期	2年 後期	授業の方法	講義・演習
単 位 数	2 単位	授業回数	15回（試験1回を含む）
テキスト及び参考資料	最新歯科衛生士教本 人体の構造と機能2 栄養と代謝（医歯薬出版） 最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版（医歯薬出版）		

授業科目の概要

人々の健康維持・増進をはかり、正しい食習慣を確立させるための実践的教育手法を学び、歯科衛生士として必要な基礎知識を習得させる。

成績評価の方法、基準

筆記試験及び出席状況により、単位を認定する。筆記試験は100点満点とし、60点以上を合格とする。

年間授業計画

回数	授 業 内 容	到 達 目 標
1	栄養指導の概念	・栄養指導は対象となる個人や集団が健康の維持・増進や疾病の治療のために、自らの意志で栄養・食生活の改善に取り組み、問題解決を図ることができるよう支援する行為である。
2	栄養指導における対象者の把握法①	本講義では、栄養指導の基礎を学ぶとともに、歯科衛生士として行う保健指導に必要な栄養指導の知識、技術を習得することを目的とする。
3	栄養指導における対象者の把握法②	
4	妊娠・授乳期	
5	妊娠・授乳期 (DVD)	
6	乳児・幼児期 (DVD)	
7	学童・青年期	
8	成人期	
9	高齢期	
10	臨床栄養	
11	食事摂取基準と食事バランスガイド	
12	国民健康栄養調査・健康日本21	
13	食べ物のおいしさ（演習）①	
14	食べ物のおいしさ（演習）②	
15	まとめ・定期試験	

学 科 目	歯科保健指導実習	担 当 者	山田 朋恵
担当者の実務経験	歯科衛生士として市内歯科医院勤務経験を有する		
実施時期	1年 前期・後期	授業の方法	演習・実習
単 位 数	1 単位	授業回数	24回（試験1回を含む）
テキスト及び参考資料	最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版（医歯薬出版）		

授業科目の概要

- 専門的な知識と技術を充実させるために様々な実習を通して身に着けていく。
- ※理解度に応じ、実習内容の変更あり。

成績評価の方法、基準

筆記試験を実施し、実習に対する取り組む姿勢も加えて100点満点とし、60点以上を合格とする。

年間授業計画

回数	授 業 内 容	到 達 目 標
1	各種染色法体験学習 染色剤についてグループ実習	歯垢染色剤の特徴を理解し、場面に合った染色方法を選択できる。
2	歯垢染色・チャート記入練習 (PCR)	歯科保健指導に用いる各種チャートを正確に作成できる。
3	歯垢染色・チャート記入練習 (PCR)	
4	歯垢染色・チャート記入練習 (OHI)	
5	歯石の観察 (OHI)	実際に歯石を視診、触診し検出できる。
6	ブラッシングの基礎知識 各種ブラッシング方法	各種ブラッシング方法を修得する。
7	歯肉の観察 (PMA・OHI-S)	健康な歯肉、病的な歯肉を観察しチャートに記入できる。
8	歯垢染色・チャート記入練習 (総合)	
9	補助的清掃用具の使用方法実習 電動歯ブラシ・ウォーターピック	電動歯ブラシ（音波・超音波歯ブラシ）の特徴を理解し、適切に使用できる。
10	補助的清掃用具の使用方法実習 デンタルフロス・歯間ブラシ他	デンタルフロス・歯間ブラシ他の特徴を理解し、適切に使用できる。
11	症例別指導Ⅰ：矯正装置装着者、義歯装着者	対象別の口腔状況を把握し、適切なブラッシング方法及び補助的清掃用具を選択できる。
12	症例別指導Ⅱ：In. CR. Br. インプラント	

回数	授業内容	到達目標
13	歯磨剤の種類・成分	歯磨剤の成分と作用を理解できる。
14	症例別指導III：自分の口腔内に合った磨き方	
15	試験対策 中間振り返り	
16	実技テスト：ブラッシング方法、チャート計算	
17	間食指導 演習	間食の意義が理解できる。口腔衛生上、良い間食と悪い間食を理解できる。
18	コミュニケーションの重要性 I 演習	保健指導において重要なコミュニケーションについて演習を通して理解する。
19	コミュニケーションの重要性 II 演習	
20	歯科衛生過程の進め方 演習	
21	歯科衛生介入：POMR（問題志向型診療録）演習	
22	歯科衛生介入：POMR（問題志向型診療録）実習	
23	情報を共有することの重要性（グループ実習）	
24	まとめ 振り返り	

学 科 目	歯科保健指導実習	担 当 者	山田 朋恵
担当者の実務経験	歯科衛生士として市内歯科医院勤務経験を有する		
実施時期	2年 前期・後期	授業の方法	演習・実習
単 位 数	2単位	授業回数	46回（試験1回を含む）
テキスト及び参考資料	最新歯科衛生士教本 最新歯科衛生士教本 最新歯科衛生士教本	歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版（医歯薬出版） 小児歯科 第2版（医歯薬出版） 障害者歯科 第2版（医歯薬出版）	

授業科目の概要

- ・2年後期に実施する幼稚園実習での口腔衛生指導の事前準備を行う。
- ・幼稚園実習後の反省、振り返りを行い、臨床実習へつなげる。
- ・2年後期に実施する障害者施設実習での口腔衛生指導の前準備を行う。
- ・障害者施設実習後の反省、振り返りを行い、臨床実習へつなげる。

成績評価の方法、基準

筆記試験実施し、実習に対する取り組む姿勢も加えて100点満点とし、60点以上を合格とする。

年間授業計画

回数	授 業 内 容	到 達 目 標
1	幼稚園実習準備：実習概要の説明、班割発表	・幼児への適した口腔衛生指導の内容を計画できる。
2	幼稚園実習準備：ペーパー内容検討	・環境設定に配慮し、適切に準備することができる。
3	幼稚園実習準備：台本作成、媒体作成開始	・グループの中での自分の役割を把握し、全員で協力して実習を充実したものにする。
4	幼稚園実習準備：台本作成、媒体作成	・ブラッシングの重要性、う蝕になりやすいおやつとなりにくいおやつについてわかりやすいように幼児に伝えることができる。
5	幼稚園実習準備：台本作成、媒体作成	・幼児に楽しんで歯の大切さを知ってもらえるよう工夫できる。
6	幼稚園実習準備：台本作成、媒体作成	・幼児の言葉の理解度、発達状況、行動面においての特徴を理解できる。
7	幼稚園実習準備：媒体作成	・幼児の口腔内の特徴を確認できる。
8	幼稚園実習準備媒体作成	・幼児へのブラッシング指導ができる。
9	幼稚園実習準備：ペーパーサート練習	（含む仕上げ磨き）
10	幼稚園実習準備：ペーパーサート練習	・事後反省会で各自の振り返りが的確にでき、その先につなげることができる。
11	幼稚園実習準備：ペーパーサート練習	
12	幼稚園実習準備：ペーパーサート練習	
13	幼稚園実習準備：ペーパーサート練習	
14	幼稚園実習準備：ペーパーサート練習	
15	専任教員によるペーパーサートチェック	
16	ペーパーサートチェック後の手直し	

回数	授業内容	到達目標
17	ペーパーサートビデオ撮影	
18	ペーパーサートビデオ撮影	
19	ビデオチェック・リーフレット作成	
20	ビデオチェック・リーフレット作成	
21	ロールプレイ I : 幼児の特徴・ブラッシング指導	
22	ロールプレイ I : 幼児の特徴・ブラッシング指導	
23	ロールプレイ II : 染色・ペア分け・仕上げ磨き	
24	ロールプレイ II : 染色・ペア分け・仕上げ磨き	
25	実習当日要領説明、幼児への口腔衛生指導のポイント	
26	ペーパーサート最終練習	
27	1回目幼稚園実習準備	
28	1回目幼稚園実習後後片付け及び反省会	
29	2回目幼稚園実習準備	
30	2回目幼稚園実習後後片付け及び反省会	
31	2回目幼稚園実習準備	
32	2回目幼稚園実習後後片付け及び反省会	
33	障害者施設実習 実習概要説明 班分け発表	
34	障害者施設実習 「ブラッシングの手引き」作成	
35	障害者施設実習 「ブラッシングの手引き」作成	
36	1回目障害者施設実習前準備	
37	1回目障害者施設実習前準備	
38	1回目障害者施設実習当日準備	
39	1回目実習後反省会・事後レポート作成	
40	2回目実習後反省会・来年度への申し送り	
41	2回目障害者施設実習前準備	
42	2回目障害者施設実習当日準備	
43	2回目実習後反省会・事後レポート作成	
45	2回目実習後反省会・来年度への申し送り	
46	まとめ・定期試験	

学 科 目	歯科診療補助論	担 当 者	鷺頭 成子
担当者の実務経験	歯科衛生士として市内歯科医院勤務経験を有する		
実施時期	1年 前期・後期	授業の方法	講義
単 位 数	1 単位	授業回数	8回 (試験1回を含む)
テキスト及び参考資料	最新歯科衛生士教本 歯科診療補助論 第2版(医歯薬出版) 最新歯科衛生士教本 歯科機器(医歯薬出版)		

授業科目の概要

基礎知識の習得を目的とし、歯科診療補助における歯科衛生士の役割を理解すると共に、基本理念を培う。歯科材料の取り扱いを中心に、他の科目との関連を掴む。但し、講義順は、状況により変更することがある。

成績評価の方法、基準

筆記試験及び講義への出席状況により単位を認定する。

筆記試験を行い、100点満点とし、60点以上を合格とする。

年間授業計画

回数	授 業 内 容	到 達 目 標
1	歯科診療補助の概念	<ul style="list-style-type: none"> ・歯科診療補助の業務内容と法的解釈を理解する ・診療補助を行う医療職種とその業務について理解する ・医療安全の概念とその対策を説明できる ・歯科医療における感染症の概念を理解する ・各種滅菌法、消毒法の基礎知識を理解する ・医療廃棄物の分類と分別を理解する
2	医療安全と感染予防 1	<ul style="list-style-type: none"> ・アルジネート印象材の特徴・種類・用途を理解する ・寒天印象材の特徴・取り扱い方を理解する
3	歯科診療で扱う歯科材料 (アルジネート印象材・寒天印象材)	<ul style="list-style-type: none"> ・各種印象材の特徴、種類、用途を理解する。
4	歯科診療で扱う歯科材料 (酸化亜鉛ユーズノール印象材・モーリングコンパウンド・合成ゴム質印象材)	<ul style="list-style-type: none"> ・歯科用石膏の特徴、種類、用途を理解する。
5	模型材	<ul style="list-style-type: none"> ・合着材や接着材の特徴、種類、用途を理解する
6	合着材・接着材の基礎知識 (取扱い)	<ul style="list-style-type: none"> ・成形修復材の特徴、種類、用途を理解する
7	成形歯冠修復材の取り扱い	
8	まとめ・定期試験	

学 科 目	歯科診療補助論	担 当 者	鷺頭 成子
担当者の実務経験	歯科衛生士として市内歯科医院勤務経験を有する		
実施時期	2年 前期・後期	授業の方法	講義
単 位 数	1 単位	授業回数	8回 (試験1回を含む)
テキスト及び参考資料	最新歯科衛生士教本 歯科診療補助論 第2版 (医歯薬出版) 最新歯科衛生士教本 歯科機器 (医歯薬出版)		

授業科目の概要

基礎知識の習得を目的とし、歯科診療補助における歯科衛生士の役割を理解すると共に、基本理念を培う。
1年次の復習及び臨床実習に必要な知識の充実を図る。但し、講義順は、状況により変更することがある。

成績評価の方法、基準

筆記試験及び講義への出席状況により単位を認定する。
筆記試験を行い、100点満点とし、60点以上を合格とする。

年間授業計画

回数	授 業 内 容	到 達 目 標
1	仮着材・仮封材の取り扱い ワックスの取り扱い	<ul style="list-style-type: none"> ・仮封材や仮着材の特徴、種類、用途を理解する ・ワックスの特徴、種類、用途を理解する
2	歯科診療室の基礎知識・ユニットの取り扱い	<ul style="list-style-type: none"> ・歯科診療室の環境、設備について理解する
3	歯科機器の名称と取り扱い方 1	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床で頻繁に使用する器材・器具について、その用途と特徴を理解する
4	歯科機器の名称と取り扱い方 2	
5	歯科機器の名称と取り扱い方 3	
6	小児歯科治療時の診療補助	<ul style="list-style-type: none"> ・小児歯科治療の特徴を理解する ・小児歯科治療時の手順に沿った器材を理解する
7	歯周外科治療時の診療補助	<ul style="list-style-type: none"> ・歯周外科治療時の特徴を理解する ・歯周外科治療時の手順に沿った器材を理解する
8	まとめ・定期試験	

学 科 目	歯科診療補助論	担 当 者	鷺頭 成子
担当者の実務経験	歯科衛生士として市内歯科医院勤務経験を有する		
実施時期	3年 前期・後期	授業の方法	講義
単 位 数	1 単位	授業回数	8回（試験1回を含む）
テキスト及び参考資料	最新歯科衛生士教本 歯科診療補助論 第2版（医歯薬出版） 最新歯科衛生士教本 歯科機器（医歯薬出版）		

授業科目の概要

基礎知識の習得を目的とし、歯科診療補助における歯科衛生士の役割を理解すると共に、基本理念を培う。

2年次の復習及び臨床実習に必要な知識の充実を図る。但し、講義順は、状況により変更することがある。

成績評価の方法、基準

筆記試験及び講義への出席状況により単位を認定する。

筆記試験を行い、100点満点とし、60点以上を合格とする。

年間授業計画

回数	授 業 内 容	到 達 目 標
1	印象材のまとめ（国家試験対策）	・学習した分野のうち、歯科衛生士国家試験に関わる歯科診療補助論についてまとめの総講義を行う
2	セメント・ワックスのまとめ（国家試験対策）	
3	医療安全と感染予防（国家試験対策）	
4	主な全身疾患とその対応（国家試験対策）	
5	治療時に必要な歯科機器（国家試験対策）	
6	周術期における歯科診療の補助（国家試験対策）	
7	歯科訪問診療における対応（国家試験対策）	
8	まとめ・定期試験	

学 科 目	歯科診療補助実習	担 当 者	鷺頭 成子
担当者の実務経験	歯科衛生士として市内歯科医院勤務経験を有する		
実施時期	1年 前期・後期	授業の方法	演習・実習
単 位 数	1 単位	授業回数	25回 (実習試験を含む)
テキスト及び参考資料	最新歯科衛生士教本 歯科診療補助論 第2版 (医歯薬出版) 最新歯科衛生士教本 歯科機器 (医歯薬出版)		

授業科目の概要

歯科材料の特性及び取り扱いの習得を中心に、各歯科治療内容に必要な器材器具の名称・用途・取り扱い方を理解する。また、円滑な診療が行えるように共同動作の方法を学ぶ。但し、実施順は状況により変更することがある。

成績評価の方法、基準

筆記試験を行い、100点満点とし、60点以上を合格とする。

実習の参加意欲・事前準備・身だしなみを減点、加点の対象とする。

年間授業計画

回数	授 業 内 容	到 達 目 標
1	ワッテ・ガーゼの取り扱い方	<ul style="list-style-type: none"> 使用用途に合わせた作成方法の習得 基本的な器具の持ち方 手指消毒法の理解と自身の手洗い評価 グローブの装着・脱着が実施できる
2	感染予防対策 (PPEの取り扱い・手指衛生法)	<ul style="list-style-type: none"> アルジネート印象材① 計量・練和・トレーへの盛り付け
3	アルジネート印象材②	<ul style="list-style-type: none"> アルジネート印象材での局部印象採得
4	アルジネート印象材③	<ul style="list-style-type: none"> アルジネート印象材での全額印象採得 (下顎)
5	アルジネート印象材④	<ul style="list-style-type: none"> アルジネート印象材での全額印象採得 (上顎)
6	寒天印象材 (寒天アルジネート連合印象)	<ul style="list-style-type: none"> 寒天、アルジネート印象材の連合印象採得
7	無歯顎印象材	<ul style="list-style-type: none"> モデリングコンパウンド 酸化亜鉛ユージノール印象材の連合印象採得
8		

回数	授業内容	到達目標
9	合成ゴム印象材	<ul style="list-style-type: none"> シリコーンゴム印象材の印象採得 (ダブルミックス法) 標準混水量の把握
10	模型材①	
11	模型材②	
12	模型材③	
13	セメント練和の基本	<ul style="list-style-type: none"> 歯科用セメントに共通な取り扱いを理解する。 基本的なスパチュリングを実施する JIS法及びADA法の分割と時間配分を知り実際に行う
14	リン酸亜鉛セメント	
15	グラスアイオノマーセメント ポリカルボキシレートセメント	<ul style="list-style-type: none"> それぞれのセメントの特性を確認し、練和を行う
16	接着性レジンセメント	<ul style="list-style-type: none"> 接着性レジンセメントの特性・取り扱いを理解する
17	歯科用レジン① (アクリルレジン)	<ul style="list-style-type: none"> アクリルレジンの特性と取り扱いを実施する
18	歯科用レジン② (コンポジットレジン)	<ul style="list-style-type: none"> コンポジットレジンの特性と取り扱いを実施する
19	保存修復時の診療補助	<ul style="list-style-type: none"> 保存修復治療の手順と器材を理解する
20	マトリックスリテナーの使い方	<ul style="list-style-type: none"> ブラックの窩洞と使用する隔壁の分類 トップフルマイヤー型マトリックスリテナーの取り扱い方
21	歯内療法時の診療補助	<ul style="list-style-type: none"> 歯内療法の手順と器材を理解する
22	根管充填剤の取り扱い方	<ul style="list-style-type: none"> 根管充填剤の練和を行う
23	歯科材料の取り扱い (綿栓・セメント練和)	<ul style="list-style-type: none"> 手技の総復習を行う
24	実習試験 1	
25	実習試験 2	

学 科 目	歯科診療補助実習	担 当 者	鷺頭 成子
担当者の実務経験	歯科衛生士として市内歯科医院勤務経験を有する		
実施時期	2年 前期・後期	授業の方法	講義・演習・実習
単 位 数	2 単位	授業回数	47回 (実技試験を含む)
テキスト及び参考資料	最新歯科衛生士教本 歯科診療補助論 第2版 (医歯薬出版) 最新歯科衛生士教本 歯科機器 (医歯薬出版)		

授業科目の概要

九州歯科大学附属病院実習・臨床実習を目標においていた、より実践的な実習内容である。口腔観察を主眼に、直接対面行為としての診療補助力を養うことを目的としている。知識の充実と合わせて、国家試験対策の一環と考える。
1年次と同様の材料を再度取り扱い、その技術の習熟度を高める。但し、実習順は状況により変更することがある。

成績評価の方法、基準

筆記試験を行い、100点満点とし、60点以上を合格とする。実習の参加意欲・事前準備・身だしなみを減点、加点の対象とする。

年間授業計画

回数	授 業 内 容	到 達 目 標
1	仮封用セメント	・酸化亜鉛ユージノールセメントの取り扱いを実施する
2	レジン系仮封材	・レジン系仮封材の取り扱いを実施する
3	ストッピング充填①	・ストッピングの取り扱い方を行う
4	ストッピング充填②	・ストッピング充填の操作・ポジショニングを確認する
5	ユニットの基本的操作	・ユニットの名称と操作方法を学ぶ
6	患者対応の基本	・歯科診療所における患者対応を理解する
7	バキュームテクニック（基本操作）	・バキュームとスリーウェイシリングの取り扱い方及び臼後三角へ挿入を行う
8	バキュームテクニック（基本操作）	
9	スリーウェイシリングテクニック（口腔内洗浄）	・バキュームの臼後三角へ挿入とスリーウェイシリングを使って、口腔内洗浄を行う
10	歯科領域に必要な検査（画像検査・口腔内写真撮影）	・画像検査法とその補助について理解する ・口腔内写真の撮影と管理を理解する
11	口腔内写真撮影①	・口腔内写真の撮影と補助を実施する（正面觀）
12	口腔内写真撮影②	・口腔内写真の撮影と補助を実施する（側方・咬合面觀）
13	歯科材料の取り扱い方（復習）	・各材料の取り扱い方の復習を行う
14	歯科材料の取り扱い方（復習）	・各材料の取り扱い方の復習を行う（水平位のアルジネート印象採得）
15	歯科材料の取り扱い方（復習）	

回数	授業内容	到達目標
16	ラバーダム防湿の基礎知識	<ul style="list-style-type: none"> ・ラバーダム防湿の目的と器具の用途について理解する
17	ラバーダム防湿：1歯穿孔	<ul style="list-style-type: none"> ・ラバーダム防湿の1歯穿孔を演習形式で行う
18	ラバーダム防湿：多数歯穿孔	<ul style="list-style-type: none"> ・ラバーダム防湿の多数歯穿孔を演習形式で行う
19	ラバーダム防湿：多数歯穿孔	<ul style="list-style-type: none"> ・ラバーダム防湿の多数歯穿孔を演習形式で行う
20	ラバーダム防湿：相互実習・実習試験	<ul style="list-style-type: none"> ・ラバーダム防湿の1歯穿孔の相互実習を行う
21	ラバーダム防湿：相互実習・実習試験	<ul style="list-style-type: none"> ・ラバーダム防湿の確認実習試験を行う
22	歯肉圧排	<ul style="list-style-type: none"> ・歯肉圧排法と手順について理解し実施できる
23	補綴治療時の診療補助	<ul style="list-style-type: none"> ・歯科補綴治療の特徴と手順を理解する
24	矯正治療時の診療補助（歯間分離）	<ul style="list-style-type: none"> ・矯正歯科治療の特徴と手順を理解する
25	口腔外科時・歯科麻酔時の診療補助	<ul style="list-style-type: none"> ・口腔外科治療の特徴と手順を理解する
26	TeC作製（前歯）：レジン冠	<ul style="list-style-type: none"> ・シェルテックを使って作製する方法
27	TeC作製（前歯）：レジン冠	<ul style="list-style-type: none"> ・筆積み法により作製する方法
28	TeC作製（臼歯部）：筆積み法	<ul style="list-style-type: none"> ・筆積み法により作製する方法
29	TeC作製（臼歯部）：筆積み法	<ul style="list-style-type: none"> ・筆積み法により作製する方法
30	TeC作製：仕上げ	<ul style="list-style-type: none"> ・作製したTeCを仮着し余剰セメント除去までを実施する
31	TeC作製：仕上げ	<ul style="list-style-type: none"> ・合同実習に備えて、各材料の取り扱い方の復習を行う
32	TeC作製仮着と余剰セメント除去	<ul style="list-style-type: none"> ・各材料の取り扱い方の復習を行う
33	材料の取り扱い方（復習）	<ul style="list-style-type: none"> ・各材料の取り扱い方の復習を行う
34	材料の取り扱い方（復習）	<ul style="list-style-type: none"> ・歯科用セメントの練和、実技指導を1年生に対して行う
35	材料の取り扱い方（印象材・石膏注入）	<ul style="list-style-type: none"> ・綿栓の巻き方、実技指導を1年生に対して行う
36	材料の取り扱い方（印象材・石膏注入）	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床実習に備えて、各材料の取り扱い方の復習を行う
37	1・2年生合同実習	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床実習に備えて、各材料の取り扱い方の復習を行う
38	1・2年生合同実習	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床実習に備えて、各材料の取り扱い方の復習を行う
39	材料の取り扱い方（復習）	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床実習に備えて、各材料の取り扱い方の復習を行う
40	材料の取り扱い方（復習）	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床実習に備えて、各材料の取り扱い方の復習を行う
41	材料の取り扱い方（復習）	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床実習に備えて、各材料の取り扱い方の復習を行う
42	バキュームテクニック（応用）	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床実習に備えて、バキュームテクニックの復習を行う。
43	バキュームテクニック（応用）	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床実習に備えて、バキュームテクニックの復習を行う。
44	バキュームテクニック（復習）	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床実習に備えて、バキュームテクニックの復習を行う。
45	材料の取り扱い方（実技試験前練習）	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床実習に備えて、バキュームテクニックの復習を行う。
46	実技試験1	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床実習に備えて、バキュームテクニックの復習を行う。
47	実技試験2	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床実習に備えて、バキュームテクニックの復習を行う。

学 科 目	歯科診療補助実習	担 当 者	鶴頭 成子
担当者の実務経験	歯科衛生士として市内歯科医院勤務経験を有する		
実施時期	3年 前期・後期	授業の方法	講義
単 位 数	1 単位	授業回数	24回 (試験1回を含む)
テキスト及び参考資料	最新歯科衛生士教本 歯科診療補助論 第2版 (医歯薬出版) 最新歯科衛生士教本 歯科機器 (医歯薬出版)		

授業科目の概要

実践的な実習内容で診療補助能力の養成を行う。
 また、国家試験対策として、エビデンスに基づく思考及び知識の定着を図る。
 材料の取り扱いは、1年次より積み上げてきた技術が、最終段階に到達することを、目標に訓練を行う。
 但し、実習順、実習内容は状況により変更することがある。

成績評価の方法、基準

筆記試験を行い、100点満点とし、60点以上を合格とする。
 実習の参加意欲・事前準備・身だしなみを減点、加点の対象とする。

年間授業計画

回数	授 業 内 容	到 達 目 標
1	総合実習 (印象採得・模型作製)	・合同実習の準備の為に、各種検査や資料の収集を行う (印象採得及びスタディモデルの作成)
2	総合実習 (印象採得・模型作製)	
3	臨床実習対応 : TeC作製 (前歯) : 印象採得法	・形成前の歯の印象を利用してアクリルレジンで作製する方法。
4	臨床実習対応 : TeC作製 (前歯) : 印象採得法	
5	臨床実習対応 : TeC作製 (臼歯部) : 一括練和法	・一括練和し、塊から短時間で作製する方法。
6	臨床実習対応 : TeC作製 (臼歯部) : 一括練和法	
7	臨床実習対応 : TeC作製 : 仕上げ	・今まで習得したTeC作製方法を復習する。 短時間で、作製から研磨まで一連の流れ、使用する器具を理解する
8	臨床実習対応 : TeC作製 : 仕上げ	
9	臨床実習対応 : 仮封材	・様々な仮封材の特性を知り使い分けを学ぶ。 取り扱いを復習し、短時間で行えるようにする。
10	臨床実習対応 : 仮封材	

回数	授業内容	到達目標
11	臨床実習対応：バキューム応用	・部位別操作方法を習得する
12	臨床実習対応：バキューム応用	
13	臨床実習対応：バキューム応用	
14	臨床実習対応：バキューム応用	
15	臨床実習対応：セメント練和	・臨床実習をより充実させるために、技術の向上を図る
16	臨床実習対応：セメント練和	
17	臨床実習対応：セメント練和	
18	臨床実習対応：印象採得（シリコーンゴム印象材）	・材料の特性を復習し、臨床実習の充実を図る
19	臨床実習対応：印象採得（シリコーンゴム印象材）	
20	臨床実習対応：（寒天アルジネート）	・寒天・アルジネート連合印象を行い、精密印象採得（インレー窩洞・ポスト印象採得）を行う。
21	臨床実習対応：（寒天アルジネート）	
22	臨床実習対応：綿栓	・臨床実習をより充実させるために、技術の向上を図る。
23	臨床実習対応：綿栓	
24	定期試験	

学 科 目	歯科放射線学	担 当 者	小田 昌史
担当者の実務経験	歯科医師として大学病院等で勤務経験を有する		
実施時期	2年 前期	授業の方法	講義・実習
単 位 数	2 単位	授業回数	15回(試験1回を含む)
テキスト及び参考資料	最新歯科衛生士教本 歯科放射線(医歯薬出版)		

授業科目の概要

歯科衛生士は生涯を通じて放射線従事者として働く職業である。同時に、患者に最も近接した立場で仕事を行う性格も有している。そのため、患者からエックス線に対する質問を受ける機会も多い。こういった、質問に対し正確な知識をもって適切に解答できることは患者からの信頼に繋がる。するために、歯科放射線学を通じてエックス線の生物学的作用を理解し、その安全性と危険性について正しく認識する必要がある。同時に、医学に対するエックス線の有用性を正しく理解することも大切である。のために、エックス線を利用して、生体の内部構造を非侵襲的に画像化する過程を理解する。

成績評価の方法、基準

筆記試験を行い、100点満点とし、60点以上を合格とする。

年間授業計画

回数	授 業 内 容	到 達 目 標
1	歯科医療と放射線	・放射線の有用性を把握する。放射線の定義、性質を理解する。
2	放射線の人体への影響	・放射線の生物学的作用を理解する。
3	放射線の防護	・放射線の生物学的作用を理解し、その防護方法について学習する。
4	エックス線画像の形成	・エックス線画像の形成原理を理解する。
5	歯科におけるエックス線検査	・歯科で利用される画像検査装置の種類、装置構造および各種画像の特徴について理解する。
6	口内法エックス線撮影の実際	・口内法撮影とはどのようなものかを理解する。
7	口内法エックス線撮影における歯科衛生士の役割	・口内法の実際的撮影方法について歯牙ごとに理解する。
8	パノラマエックス線撮影の実際と歯科衛生士の役割	・パノラマエックス線撮影とその実際的撮影方法について学習する。
9	写真処理と画像保管の実際	・エックス線撮影後のフィルム処理の過程及び保管法を理解する。
10	放射線治療と口腔管理	・放射線を利用した口腔癌に対する治療について理解し、周術期の口腔ケアについて学習する。
11	口内法撮影実習	・口内撮影(二等分法およびインジケータを使用)を学生間で相互実習することにより理解する。
12	口内法撮影実習	・口内撮影(二等分法およびインジケータを使用)を学生間で相互実習することにより理解する。
13	パノラマエックス線撮影実習	・パノラマエックス線撮影を学生間で相互実習することにより理解する。
14	パノラマエックス線撮影実習	・パノラマエックス線撮影を学生間で相互実習することにより理解する。
15	まとめ・定期試験	

学 科 目	臨床検査法	担 当 者	瀬田 千尋
担当者の実務経験	—		
実施時期	1年 後期	授業の方法	講義
単 位 数	1 単位	授業回数	8回（試験1回を含む）
テキスト及び参考資料	最新歯科衛生士教本 臨床検査（医歯薬出版）		

授業科目の概要

基本的な生理機能と疾患の関係に基づいて導きだされる臨床検査結果が示す意味について全身との関係を踏まえて講義を進める。

成績評価の方法、基準

筆記試験を行い、100点満点とし60%の正答率をもって合格とする。

年間授業計画

回数	授 業 内 容	到 達 目 標
1	臨床検査の意義と概要について	・ 基本的な生理機能について復習する。
2	生体検査（生理機能検査）	・ 疾患別に必要な検査項目と検査結果の関係を学習する。
3	生体検査（生理機能検査）	・ 臨床において異常値を示した場合の対応について学習する。
4	検体検査（一般検査・血液学的検査）	
5	検体検査（生化学的検査）	
6	微生物・病理検査	
7	口腔領域の検査	
8	まとめ・定期試験	

学 科 目	臨地・臨床実習	担 当 者	実習指導者
担当者の実務経験	九州歯科大学附属病院勤務の実習指導者		
実施時期	1年 後期	授業の方法	実習
単 位 数	1 単位	授業回数	—
テキスト及び参考資料	—		

授業科目の概要

机上で学んだ知識・技術を実際の医療現場に活用する。

実習を通じて、即戦力としての技術を習得し、歯科衛生士の仕事に対する理解を深める。

患者様への接し方、やさしい心配りの大切さを学ぶ。

口腔保健の専門職としての自覚と責任をもち、これまでに習得した知識・技術を集約して、実践できる能力を養う。

成績評価の方法、基準

レポート・出席状況・実習態度等の総合評価とする。

年間授業計画

授 業 内 容	到 達 目 標
<p>九州歯科大学附属病院見学実習</p> <p>九州歯科大学附属病院内の診療科のうち</p> <p>6日間見学実習を実施する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・歯科医学の最先端である病院において、それぞれの医局の特徴を知り、学院にて学んだ知識や技術を再確認する。 ・各科専門の診療体系を理解し、歯科医療チーム内での歯科衛生士の役割を認識する。 ・臨床科目の理解を深め、課題を通して基礎知識の整理を行う。 ・患者様と医療スタッフの対応を見学し、医療従事者としての自覚を高める。

学 科 目	臨地・臨床実習	担 当 者	実習指導者
担当者の実務経験	各施設等にて勤務経験を有する		
実施時期	2年 前期・後期	授業の方法	実習
単 位 数	5 単位	授業回数	—
テキスト及び参考資料	—		

授業科目の概要

医療従事者として、医療という深く大きなものにかかわって、歯科衛生士という職業の重大さと責任を自覚していく第一歩となる。

実際の診療・施設等での共同動作・歯科予防処置・歯科診療補助・歯科保健指導の流れを理解する。

成績評価の方法、基準

実習評価・レポート他提出物・出席状況・実習態度等の総合評価とする。

年間授業計画

授 業 内 容	到 達 目 標
<p>臨床実習</p> <p>指定臨床実習施設病院にて実習を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 学内で習得した知識や技術を臨床の場において実践できる能力を身につける。 医療チームの一員として必要な能力を身につける。 専門職として自覚と責任を持つ。 歯科衛生士業務を実践するために必要な技能を身につける。
<p>九州歯科大学附属病院実習</p> <p>九州歯科大学附属病院内の診療科のうち6日間実習を実施する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 歯科医療の最先端である病院にて、それぞれの医局の診療内容の特徴を知る。 学院で習得した知識や技術を各医局の場において実践する技術、患者様とのコミュニケーション能力を身につける。
<p>臨地実習</p> <p>歯科診療所以外の場にて実習を行う。 (幼稚園・障害者施設・人体解剖 等)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 他職種との連携の取り方を学ぶ。 医療チームの一員として必要な能力を身につける。 園児や障害者と接することでその特性を知り、対象者に応じた指導法を考えていく。 解剖実習を通して、人体の構造、人の生命の大切さを学ぶ。

学 科 目	臨地・臨床実習	担 当 者	実習指導者
担当者の実務経験	歯科医院、施設等にて勤務経験を有する		
実施時期	3年	授業の方法	実習
単 位 数	14 単位	授業回数	—
テキスト及び参考資料	—		

授業科目の概要

修得した知識や技術をより正確なものとし、歯・口腔及び全身の健康支援、歯周病の予防と高齢者・要介護者に対する専門性の向上及び医療チームの一員として必要な技能を身につける。専門性の確立及び人間的なコミュニケーション能力を身に付け、充実した実習をなし、机上理解でなく、臨床実習の現場で学び吸収する。

成績評価の方法、基準

実習評価・レポート他提出物・出席状況・実習態度等の総合評価とする。

年間授業計画

授 業 内 容	到 達 目 標
<p>臨床実習</p> <p>指定臨床実習施設病院にて実習を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床能力を高め、思いやりと社会性を持った口腔保健を担う者として即戦力となる能力を養う。 ・症例に応じた器材を準備できる。 ・治療の流れを把握し、歯科診療補助、介助を行なえる。 ・指示された方法でう蝕予防処置を行う。 ・指示された方法でスケーリングを行える。 ・指示された方法でスプラッシング指導を行える。

客観的な指標の算出方法

- 成績評価の客観的な指標としてGPAを設定することによって、担当教員が個々の学生および保護者に対して学修支援を行う。

【グレードポイントの設定】

秀：4.0、優：3.0、良：2.0、可：1.0、不可：0

【GPAの算出方法】

$4.0 \times \text{「秀」} + 3.0 \times \text{「優」} + 2.0 \times \text{「良」} + 1.0 \times \text{「可」} / \text{総履修登録単位数}$ （「不可」の単位数を含む）

※小数点3位以下は四捨五入

- GPAは学期ごとに算出し、必要と判断された時には保護者との面談資料としても使用する。

卒業の認定に関する方針

- ・本学院に3年以上在学し、教育課程で定めた単位を習得しなければならない。
- ・卒業の認定は、卒業認定会議を経て学院長が認定する。
- ・所定の単位数を取得した者は、専門士を称することができる

貸借対照表

令和3年3月31日

(単位 円)

資産の部			
科 目	本 年 度 末	前 年 度 末	増 減
固 定 資 産	《 1,626,004,581 》	《 1,592,250,488 》	《 33,754,093 》
有 形 固 定 資 産	(1,001,259,463)	(993,005,370)	(8,254,093)
土 地	270,751,214	270,751,214	0
建 物	447,572,364	459,151,300	△ 11,578,936
構 築 物	59,817,319	62,636,045	△ 2,818,726
教育研究用機器備品	97,339,935	76,897,554	20,442,381
管理用機器備品	17,603,916	16,935,529	668,387
図 書	108,174,715	106,633,728	1,540,987
特 定 資 産	(597,200,000)	(571,700,000)	(25,500,000)
その他の固定資産	(27,545,118)	(27,545,118)	(0)
電 話 加 入 権	1,046,708	1,046,708	0
預 託 金	26,498,410	26,498,410	0
修学旅行預け金	0	0	0
流 動 資 産	《 404,406,194 》	《 328,080,999 》	《 76,325,195 》
現 金 預 金	363,738,276	280,462,334	83,275,942
未 収 入 金	40,667,918	47,618,665	△ 6,950,747
資 産 の 部 合 計	2,030,410,775	1,920,331,487	110,079,288
負債の部			
科 目	本 年 度 末	前 年 度 末	増 減
固 定 負 債	《 73,036,130 》	《 64,441,355 》	《 8,594,775 》
長 期 借 入 金	11,130,000	15,890,000	△ 4,760,000
退職給与引当金	42,114,854	39,590,775	2,524,079
長 期 未 払 金	19,791,276	8,960,580	10,830,696
流 動 負 債	《 215,991,637 》	《 187,241,117 》	《 28,750,520 》
短 期 借 入 金	4,760,000	10,300,000	△ 5,540,000
未 払 金	13,371,623	12,702,139	669,484
前 受 金	101,691,000	97,629,000	4,062,000
預 り 金	96,169,014	66,609,978	29,559,036
負 債 の 部 合 計	289,027,767	251,682,472	37,345,295
純資産の部			
科 目	本 年 度 末	前 年 度 末	増 減
基 本 金	《 2,505,052,345 》	《 2,503,753,929 》	《 1,298,416 》
第 1 号 基 本 金	2,436,052,345	2,434,753,929	1,298,416
第 4 号 基 本 金	69,000,000	69,000,000	0
繰越収支差額	《 △ 763,669,337 》	《 △ 835,104,914 》	《 71,435,577 》
翌年度繰越収支差額	△ 763,669,337	△ 835,104,914	71,435,577
純資産の部合計	1,741,383,008	1,668,649,015	72,733,993
負債及び純資産の部合計	2,030,410,775	1,920,331,487	110,079,288

資金収支計算書

令和2年4月 1日から

令和3年3月31日まで

(単位 円)

収入の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
学生生徒等納付金収入	(505,780,000)	(505,774,500)	(5,500)
手数料収入	(10,561,000)	(10,568,000)	(△ 7,000)
寄付金収入	(3,870,000)	(3,864,610)	(5,390)
補助金収入	(392,187,000)	(392,188,577)	(△ 1,577)
資産売却収入	(20,000,000)	(20,000,000)	(0)
受取利息・配当金収入	(74,000)	(69,930)	(4,070)
雑収入	(45,509,000)	(45,503,191)	(5,809)
借入金等収入	(0)	(0)	(0)
前受金収入	(101,702,000)	(101,691,000)	(11,000)
その他の収入	(77,181,000)	(77,177,701)	(3,299)
資金収入調整勘定	(△ 138,297,000)	(△ 138,296,918)	(△ 82)
前年度繰越支払資金	(280,462,334)	(280,462,334)	
収 入 の 部 合 計	1,299,029,334	1,299,002,925	26,409

(単位 円)

支出の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
人件費支出	(623,402,000)	(623,391,064)	(10,936)
教育研究経費支出	(172,388,000)	(172,363,191)	(24,809)
管理経費支出	(39,852,000)	(39,844,815)	(7,185)
借入金等利息支出	(215,000)	(209,726)	(5,274)
借入金等返済支出	(10,300,000)	(10,300,000)	(0)
施設関係支出	(40,267,000)	(40,266,820)	(180)
設備関係支出	(34,869,000)	(34,889,213)	(△ 20,213)
資産運用支出	(25,500,000)	(25,500,000)	(0)
その他の支出	(12,701,000)	(12,702,139)	(△ 1,139)
資金支出調整勘定	(△ 24,194,000)	(△ 24,202,319)	(8,319)
翌年度繰越支払資金	(363,729,334)	(363,738,276)	(△ 8,942)
支 出 の 部 合 計	1,299,029,334	1,299,002,925	26,409

財産目録

令和3年3月31日

《資産の部》

(単位 円)

種 別	摘 要	金 額
土 地		270,751,214
建 物		447,572,364
構 築 物		59,817,319
教育研究用機器備品		97,339,935
管理用機器備品		17,603,916
図 書		108,174,715
特 定 資 産		597,200,000
電 話 加 入 権		1,046,708
預 託 金		26,498,410
現 金 ・ 預 金		363,738,276
未 収 入 金		40,667,918
資 産 の 部 合 計		2,030,410,775

《負債の部》

(単位 円)

種 別	摘 要	金 額
長 期 借 入 金		11,130,000
退職給与引当金		42,114,854
長 期 未 払 金		19,791,276
短 期 借 入 金		4,760,000
未 払 金		13,371,623
前 受 金		101,691,000
預 り 金		96,169,014
負 債 の 部 合 計		289,027,767
正 味 財 産		1,741,383,008

令和2年度 事業報告書

1. 法人の概要

法人名	学校法人 美萩野学園			理事長名	権 堂 竹 虎			
所在地	福岡県北九州市小倉北区片野新町1-3-1				電話番号	093-921-1331		
設立年月日	昭和26年3月12日				資産の総額	1,741,383千円(令和3年3月末現在)		
目的	この法人は、教育基本法及び学校教育法、その他の教育に関する法令に従い、心身の発達に応じた学校教育を施し、以て人間性の陶冶に努め、国家及び社会の有為な形成者として必要な資質を養うことを目的とする。							
設置する学校名	課程	科別	入学(入園) 定数	入学(入園) 実数	5月1日生徒 (園児)数		5月1日本務者数	
					定員	実員	教員数	職員数
美萩野女子高等学校	全日制	普通科	100	27	300	99	39	6
		商業科	80	45	240	116		
		看護科	70	56	210	209		
		看護専攻科	70	64	140	109		
小倉日新館中学校	専門課程		100	104	300	315	19	6
美萩野保健衛生学院			50	42	150	93	5	3

①事業の概要

1 教育事業

美萩野女子高等学校

1 学力の向上

コロナ禍において、学校行事の見直しを余儀なくされたが、授業時間の確保に務めることを心掛けた。また、オンライン授業を含むICT教育について、職員の意識を高めさせ充実させた。これにより、生徒の学習意欲も高まり、学習の向上が図られた。今後は、令和4年度から始まる教育課程の準備を進める。

2 生活指導

正しい制服の徹底と時・場所・状況に応じた挨拶と言葉遣いを指導の軸とし、問題行動の防止につとめた。また、生徒の現状を細かく把握するために月に一回の学校生活アンケート（いじめアンケート）を実施し、早期発見・早期対応に取り組むため、職員間の情報共有に努め、教育相談委員会における対応策等の協議にも繋げることができた。コロナ禍で全校集会や学年集会に制限があり、外部講師を招くことも困難であり、躾や心の教育が行き届かないところもあった。

本年度も教職員が一丸となり粘り強く生徒と向き合い、現状把握につとめ、きめ細かい指導を実践していく。

3. 環境美化

日々の積極的に清掃活動を行う中で、校内外の美化と公共心の育成につとめた。その結果、オープンスクールで来校した中学生や保護者の感想に、校内の清掃が行き届いているとの評価をいただくことにもつながり、本校の好印象の一端を担うことができた。また、企業や上級学校の職員の方からも清掃について高い評価をいただくことができた。来年度もこれまで培ってきた校内外の美化活動にしっかりと取り組み、美化委員会活動・部活動・生徒会活動を中心として、更なる校内美化活動の充実を図るとともに地域活動にも積極的に参加させたい。

4 進 学

4年生大学8名、短期大学3名、専門学校32名、就職27名、未決定者2名という結果であった。看護専攻科へは64名が進級した。進学志望者の進路決定率は100%であった。

5 就 職

求人数は、コロナ禍の採用数減の影響を受け、昨年より25%ほど減の600名程度であった。学校を通じて就職を希望する生徒（普通科進学コース4名、商業科23名）計27名全員が内定を得ることができた。昨年度は製造職希望が多かったが、本年度は販売職希望の生徒が多かった。

学校紹介希望者に対する内定率は100%となった。

6 看護科・看護専攻科

看護科では、定期考査のみならず、基礎学力の向上を目指し、日本語検定・英語検定試験を継続実施し、また、戴帽テストや進級テストを実施することで、知識の定着に繋げるように取り組んだ。感染予防拡大防止のために学内実習となつたが、できる限り臨地での看護がイメージできるように状況を設定し指導を行つた。

3学年次に転科を希望した生徒が2名、本科卒業時に専攻科への進級を希望しなかつた生徒が5名で、64名が専攻科へ進級した。

看護専攻科では、昨年と同様に学生の自主・自立を目指し、看護専門職業者として必要とされる力を身に着けるように継続し教育活動に取り組んだ。新型コロナウイルス感染症の影響で、臨地実習を受け入れてくださる施設が減少したため、臨地の見学実習の時間などを調整することで、学内での学びが発展的なものとなるよう努めた。専攻科2年修了生42名、令和3年度福岡県准看護師試験42名合格(100%)、第110回看護師国家試験37名合格(90%)。就職内定率は100%という結果になった。

7 教 職 員

初任者研修・校内授業研修の充実により、資質・指導技術・意欲の向上が図られた。また、部長主任を中心として、組織力を高め、建学の精神、教育方針に基づいた重点目標の達成に努めた。また、ICTの活用にも取り組み、Google classroom等の活用を通して、オンライン授業等、授業確保と生徒一人ひとりのニーズに応じた、よりきめ細かい生徒へのケアの充実が図られた。今後は、学校生活アンケートの集約等にも活用の幅を広げていく。

小倉日新館中学校

1 教科指導

- (1) コロナウイルス感染症に関する緊急事態宣言発出下において、必要な授業時数を確保した。
- (2) 数学科・英語科の習熟度別学級編成による授業を通して、学習意欲の向上、学習習慣の定着を図った。
- (3) 実力テストの結果を学年・教科で分析し、授業改善に役立てた。授業時数の確保もできた。

2 生徒指導

- (1) 規律の維持、基本的な生活習慣の確立が図れた。
- (2) 愛校心、自主自律・創造立志の精神を全教育活動を通して、浸透させることができた。

3 学校行事

- (1) 新型コロナウイルス感染症対応のため、三密（密集・密接・密閉）を避けた行動、環境の徹底を図ったため、合宿の中止などこれまで通りの行事は行えなかつたが、制約を伴う中でも出来うる限りの常時活動や学校生活を送ることができた。

- (2) 規模を縮小した形での体育会、校内マラソン大会などは、従来の「鍛える日新館」精神を継承し、生徒一人ひとりの精神的支柱づくりに大きく貢献した。

4 保護者・地域との連携

- (1) 学校通信「日新館」、学年通信やホームページで学校生活の様子、学習の状況を保護者に報告している。対策を施して、個人懇談会や「日新会」の組織作りは行うことができ、保護者との連携を深めてきた。
- (2) 様々な制約の中でも入試説明会、招待模試の実施を通じ、幅広く生徒の受け入れ態勢の整備に努めた。

美萩野保健衛生学院

1 学力の向上

実習教育（基礎実習、臨床基礎実習、臨床実習）を重視し、関係機関の温かい協力を得てマンツーマン方式で個別指導を行い、学力向上をはかった。

2 生活指導

医療従事者として、恥ずかしくない身だしなみを指導した。

3 補助活動事業

なし

4 収益事業

なし

5 その他の事業

美萩野女子高等学校

- ①校内照明LED化（本館）
- ②本館グラウンド側校舎壁面補修
- ③本館職員室Wi-Fi工事
- ④看護専攻科Wi-Fi工事
- ⑤部活動外部コーチ派遣
- ⑥生徒用机・椅子更新（450台）
- ⑦第1コンピュータ室パソコンOS更新（39台）

小倉日新館中学校

- ①男子トイレ大便器ブース一部改修（2階～4階）
- ②男女トイレ手洗い場改修工事（1階～4階）
- ③校舎内一部照明LED化（正面玄関・職員室等）
- ④武道場大型換気扇・送風機設置
- ⑤空気清浄機付き送風機設置（各教室）
- ⑥生徒用タブレットPC整備（156台）

美萩野保健衛生学院

- ①学生募集活動支援業務委託
- ②学院案内・ホームページ他更新
- ③空調室外機移設工事
- ④受電用PAS及びケーブル更新工事

6 理事会・評議員会開催状況

第1回評議員会

- 日時 令和2年5月26日 火曜日 13時
議題 第1号議案「議事録署名人の選出について」
第2号議案「令和元年度事業実績及び収支決算報告について」

第1回理事会

- 日時 令和2年5月26日 火曜日 13時30分
議題 第1号議案「議事録署名人の選出について」
第2号議案「令和元年度事業実績及び収支決算報告について」

第2回評議員会

- 日時 令和2年9月18日 金曜日 12時30分
議題 第1号議案「議事録署名人の選出について」
第2号議案「美萩野保健衛生学院学則の一部変更について」

第2回理事会

- 日時 令和2年9月18日 金曜日 13時
議題 第1号議案「議事録署名人の選出について」
第2号議案「美萩野保健衛生学院学則の一部変更について」

第3回理事会

- 日時 令和2年10月23日 金曜日 13時30分
議題 第1号議案「議事録署名人の選出について」
第2号議案「役員の補充選任について」
第3号議案「評議員の補充選任について」

第4回理事会

- 日時 令和3年3月19日 金曜日 12時45分
議題 第1号議案「議事録署名人の選出について」
第2号議案「評議員の推薦について」

第4回評議員会

- 日時 令和3年3月19日 金曜日 13時
議題 第1号議案「議事録署名人の選出について」
第2号議案「令和3年度授業計画及び収支予算案について」
第3号議案「理事の補充選任について」
第4号議案「評議員の補充選任について」

第4回理事会

- 日時 令和3年3月19日 金曜日 13時30分
議題 第1号議案「議事録署名人の選出について」
第2号議案「令和3年度授業計画及び収支予算案について」
第3号議案「理事の補充選任について」

3. 財務の概要

別紙決算書参照

監査報告書

令和3年 5月25日

学校法人 美萩野学園

理 事 会 御 中

評 議 員 会 御 中

学校法人 美萩野学園

監 事 浜崎 力

監 事 安倍英史

私立学校法第37条第3項に基づいて、学校法人美萩野学園の令和2年度における財産目録及び計算書類、業務及び財産並びに理事の業務執行状況に関し、令和3年5月25日監査を行いました。

監査の結果、同学校法人の業務及び財産並びに理事の業務執行状況に関する不正の行為又は法令若しくは寄附行為に違反する行為は認められず、適正に処理されていましたことを報告します。

学校法人 美萩野学園
美萩野保健衛生学院

令和2年度 自己点検評価報告書

令和3年4月26日

4 : 適切 3 : ほぼ適切
2 : やや不適切 1 : 不適切

ガイドラインの評価・項目	学校が設定する評価項目	自己評価
(1) 教育理念・目標	教育理念・教育目標を学生が理解しているか	4
	教育計画は学生の実態に即しているか	4
	将来の構想を持っているか	4
	職業教育の特色は明確か	4
(2) 学校運営	運営方針に沿った事業が行われているか	4
	情報公開が適切に行われているか	4
	教務・財務等の組織整備が適切か	4
(3) 教育活動	教育理念に沿った教育が行われているか	4
	カリキュラムは体系的に構成されているか	4
	シラバスは適切な内容か	4
	成績評価基準は明確になっているか	4
	各教科の時間配分は適切か	4
4) 学修成果	資格取得に向けた取組がなされているかし	4
	就職率の向上に向けた取組がなされているか	4
	退学者の低減に向けた取組がなされているか	4
(5) 学生支援	就職に向けた支援体制が整備されているか	4
	学生相談の支援体制が整備されているか	4
	学生の健康管理の体制は整備されているか	4
	保護者と適切に連携しているか	4
(6) 教育環境	施設・設備は充分に整備されているか	3
	防災対策は整備されているか	4
(7) 学生の受入れ募集	学生募集は適正に行われているか	4
	学納金は妥当なものとなっているか	4
(8) 財務	中長期的に財務基盤は安定しているか	3
	財務において会計監査が適正に行われているか	4
	財務情報公開の体制はできているか	4
(9) 法令などの遵守	個人情報保護対策がとられているか	4
	自己評価結果を公開しているか	4

学校法人 美萩野学園
美萩野保健衛生学院

令和2年度 学校関係者評価委員会報告書

学校法人美萩野学園美萩野保健衛生学院は令和2年度学校自己点検・自己評価結果に基づいて、令和3年4月26日に学校法人美萩野学園関係者評価委員会を実施しましたので、以下のとおり報告します。

1. 学校関係者評価委員

名 前	所 属	出欠
野 田 節 子	小倉日新館中学校 養護教諭	出 席
久 富 利 律	藤崎歯科医院	出 席
喜 佐 田 由 美	美萩野保健衛生学院	出 席
深 江 宗 一	美萩野保健衛生学院	出 席

2. 報告事項

ガイドラインの評価・項目	評価・意見など
(1)教育理念・目標	「教育理念」、「教育計画」は、自己点検報告書の通り、妥当であると評価された。
(2)学校運営	「運営方針に沿った事業」、「教務や財務の組織整備」については妥当であると評価された。 「情報公開」については今年度より公開を開始したことを報告した。
(3)教育活動	「教育理念に沿った教育」「成績評価の基準」「各教科の時間配分」については、妥当であると評価された。「カリキュラム」については、3年制カリキュラム内容の科目数の削減や時間数の見直しを行ったことを報告した。「シラバス」においては、教科書の内容改訂や疾患の分類変更等があるため、最新の講義内容に変更し、HPに掲載したことを報告し、了承された。
(4)学修成果	修学成果全般において適切に行われており、妥当であると評価された。
(5)学生支援	学生支援全般において適切に行われており、妥当であると評価された。

(6)教育環境	「施設・設備」「防災対策」の整備については、妥当であると評価された。施設の老朽化に伴い、トイレの改修工事及び換気扇設置が行われることを報告し、了承を得た。
(7)学生の受け入れ募集	妥当であると評価された。今年度入学生は、定員に達したことを報告した。多方面に働きかけ、歯科衛生士の知名度を上げていくことが大事で、そのためには卒業生にもご協力いただき、もっと歯科衛生士をアピールしてもらいたいということで意見が一致した。
(8)財務	特に問題なし。
(9)法令などの遵守	特に問題はなく妥当であると評価された。

確認申請を行う年度において設置している学部等の一覧

学校名 美萩野保健衛生学院

課程名	歯科衛生士専門課程		
学科名	歯科衛生士学科		
修業年限	学級	入学定員	総定員
3ヵ年	1	50名	150名

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	美萩野保健衛生学院
設置者名	学校法人 美萩野学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配 置 困 難
歯科衛生士専門課程	歯科衛生士学科	夜・通信	68単位	9単位	
		夜・通信			
		夜・通信			
		夜・通信			
(備考)					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

<http://www.mihagino-dh.ac.jp/report/>

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	美萩野保健衛生学院
設置者名	学校法人 美萩野学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

<http://www.mihagino-dh.ac.jp/report/>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容や期待する役割
非常勤	元公立高等学校校長	2019.5.23 ～2024.5.24	学校教育全般に関するアドバイス
非常勤	元金融機関支店長	2019.5.23 ～2024.5.24	学校経営に関するアドバイス
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	美萩野保健衛生学院
設置者名	学校法人 美萩野学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。

(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)

授業計画書(シラバス)の作成過程

講義担当者と相談の上、改訂したものをHPに掲載する。

・到達目標について

国家試験合格のために必要な知識の習得を目標としている。

・成績評価の方法

定期試験を基本としている。

定期試験の合格点は、どの科目も100点満点中60点を合格点としている。

実技試験が必要な科目については、専任教員が担当している

・授業計画書の作成、公表時期

前年の3月までに講義担当者と相談の上、作成している。

4月に最新のものを公表している。

授業計画書の公表方法 <http://www.mihagino-dh.ac.jp/report>

2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)

・学科試験は、科目ごとに筆記試験、実技試験等により行う。

・成績評価の基準

秀90点以上、優80点以上、良70点以上、可60点以上を合格とし、59点以下を不合格とする。

・学科試験で不合格のものは、再試験を受けることができる。

・再試験は60点以上を合格とする。

3. 成績評価において、G P A等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

成績評価の客観的な指標としてG P Aを設定することによって、担当教員が個々の学生および保護者に対して学修支援を行う。

【グレードポイントの設定】 秀：4.0、優：3.0、良：2.0、可：1.0、不可：0

【G P Aの算出方法】

4.0×「秀」の修得単位数+3.0×「優」の修得単位数+2.0×「良」の修得単位数+1.0×「可」の修得単位数 / 総履修登録単位数（「不可」の単位数を含む）

※小数点3位以下は四捨五入

G P Aは学期ごとに算出し、成績通知書に記載するとともに、必要と判断された時には保護者との面談資料としても使用することによって学修状況の共有や支援を行う。

客観的な指標の算出方法の公表方法	http://www.mihagino-dh.ac.jp/report/
------------------	---

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

・本学院に3年以上在学し、教育課程で定めた単位を習得しなければならない。

・卒業の認定は、卒業認定会議を経て学院長が認定する。

・所定の単位数を取得した者は、専門士を称することができる

卒業の認定に関する方針の公表方法	http://www.mihagino-dh.ac.jp/report/
------------------	---

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	美萩野保健衛生学院
設置者名	学校法人 美萩野学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	http://www.mihagino-dh.ac.jp/report/
収支計算書又は損益計算書	http://www.mihagino-dh.ac.jp/report/
財産目録	http://www.mihagino-dh.ac.jp/report/
事業報告書	http://www.mihagino-dh.ac.jp/report/
監事による監査報告（書）	http://www.mihagino-dh.ac.jp/report/

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
医療	歯科衛生士 専門課程	歯科衛生士学科	○				
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼	2715 / 118 単位時間／単位	1290 単位時間 86/単位	0 0/単位	1425 単位時間 32/単位	0 /0 単位	0 単位時間 /0 単位
			2715 / 118 単位時間／単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
150人	121人	0人	4人	42人	46人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

・授業方法

講義を中心に実施している。P C、D V D、ビデオなどを利用する。

・内容

授業計画に基づき、実施している。

・年間の授業計画

前年度の講義、実習内容をもとに各講義担当者と各専任教員で内容を検討する。

その内容検討分をもとに学院内で全学年の現状と合わせて再検討する。

次年度の方針が決り次第、カリキュラムを作成していく。

成績評価の基準・方法
(概要) <ul style="list-style-type: none"> 各科目的成績評価は、定期試験により行う。 成績評価の基準 秀90点以上、優80点以上、良70点以上、可60点以上を合格とし、59点以下を不合格とする。 定期試験で不合格のものは、再試験を受けることができる。 再試験は60点以上を合格とする。
卒業・進級の認定基準
(概要) <ul style="list-style-type: none"> 本学院に3年以上在学し、教育課程で定めた単位を習得しなければならない。 卒業の認定は、卒業認定会議を経て学院長が認定する。 所定の単位数を取得した者は、専門士を称することができる。
学修支援等
(概要) <ul style="list-style-type: none"> 国家試験対策として、模擬試験を数多く実施する。 講義担当者が国家試験対策用講義を実施し各科目の理解度を高めるよう指導する。 成績不振者は、放課後少人数で補講を行い、成績向上を図り、合格に導く。

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）								
<table border="1"> <thead> <tr> <th>卒業者数</th> <th>進学者数</th> <th>就職者数 (自営業を含む。)</th> <th>その他</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>28人 (100%)</td> <td>0人 (%)</td> <td>28人 (100%)</td> <td>0人 (%)</td> </tr> </tbody> </table>	卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他	28人 (100%)	0人 (%)	28人 (100%)	0人 (%)
卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他					
28人 (100%)	0人 (%)	28人 (100%)	0人 (%)					
(主な就職、業界等) 歯科医院（個人）、大学病院								
(就職指導内容) <ul style="list-style-type: none"> 求人票を掲示し、学生がいつでも閲覧できるようにしている。 9月頃、就職希望調査を実施している。 就職指導資料を配布し、履歴書の書き方、就職活動の進め方や面接時のポイントなどの説明を行っている。 個人面談を何度も実施し、就職が決定するまで担任を中心に専任教員で対応している。 								
(主な学修成果（資格・検定等）) 歯科衛生士国家試験合格率は、全国平均と同程度である。								
(備考)（任意記載事項）								

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
93人	2人	2.2%
(中途退学の主な理由)		
進路変更のため		
(中退防止・中退者支援のための取組)		
<ul style="list-style-type: none"> ・各学年で5月～6月にかけて個人面談を行う。 ・朝礼にて出席状況を把握し、欠席や遅刻が続く場合は保護者に連絡を取り、状況確認を行う ・日頃から学生に声掛けをする。他の専任教員と連絡を密にし、気になる学生には、個人面談を行う。 		

②学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考 (任意記載事項)
歯科衛生学科	250,000 円	400,000 円	260,000 円	
	円	円	円	
	円	円	円	
	円	円	円	
修学支援 (任意記載事項)				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) http://www.mihagino-dh.ac.jp/report/															
学校関係者評価の基本方針 (実施方法・体制) 専修学校教育の発展を目指した評価を行う事が重要である。 学校自己評価に対する意見や評価を受け、質の高い職業教育が出来るよう、学校運営の改善と課題を見出す。「専修学校における学校評価ガイドライン」に則り、実施することを基本方針とする。評価委員の構成は、本校卒業生で構成する。定員は2名とし、毎年4月に委員会を開催する。そこで得られた評価に基づき、新年度に改善、導入できるものは行う。															
学校関係者評価の委員															
<table border="1"> <thead> <tr> <th>所属</th> <th>任期</th> <th>種別</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小倉日新館中学校</td> <td>2020年4月 1日～ 2022年3月 31日</td> <td>本校卒業生</td> </tr> <tr> <td>藤崎歯科医院</td> <td>2020年4月 1日～ 2022年3月 31日</td> <td>本校卒業生</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	所属	任期	種別	小倉日新館中学校	2020年4月 1日～ 2022年3月 31日	本校卒業生	藤崎歯科医院	2020年4月 1日～ 2022年3月 31日	本校卒業生						
所属	任期	種別													
小倉日新館中学校	2020年4月 1日～ 2022年3月 31日	本校卒業生													
藤崎歯科医院	2020年4月 1日～ 2022年3月 31日	本校卒業生													
学校関係者評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) http://www.mihagino-dh.ac.jp/report/															
第三者による学校評価 (任意記載事項)															

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) http://www.mihagino-dh.ac.jp/report/
--